

アセンションBOOK 11

天の川銀河創造の秘密4

2014年9月

天の川銀河創造の秘密

4

地球の古代文明の統合



地球の古代文明の統合 目次

- 第1章 「宇宙の大地」とつながるシャ
ンバラ
- 第2章 遺伝子の働きを整えるムー
- 第3章 アトランティスの新生
- 第4章 地球最古の文明 アンドロメダ
文明
- 第5章 レムリアの再生の約束
- 第6章 レムリアの魔法の世界と癒しの
世界
- 第7章 アポロン神殿の神々
- 第8章 アバロンの伝説と新たな復活
- 第9章 地球の内部次元を守るアガルタ
帝国
- 第10章 シャングリラの夢
- 第11章 地球最古の文明が作った宿命

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI

yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ

<http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 宇宙の大地とつながるシャンバラ

PART1 偉大なる叡智の残り火シャンバラ

私達は、いくつもの星への旅を行い、天の川銀河の様々な星座の問題を解決し再建を行ってきました。

また天の川銀河だけでなく、アンドロメダ銀河、オリオン星雲、プレアディス星団をはじめとするユニバース（単一宇宙）の高次のマスター達と共に、それぞれの銀河や星団の問題を解決するために活動してきました。

そして、私達のユニバース（単一宇宙）だけでなく、さらにたくさんのユニバース（単一宇宙）が集まった多次元宇宙の存在も知りました。

私達は、創造主に導かれ、多次元宇宙を統治するマスター達や多次元宇宙を生み出した創造主ブラフマンの元にまでたどり着いたのです。

私達は、創造主と共に、私達のユニバースを統治するためのユニバーサル・パレスを生みだしました。

このパレスには、各銀河や星団の代表者や騎士団、魔法使いなども属し、私達の宇宙の平和と進化のために働く事になりました。

また、アルゴ船座を旅する中で、バード族と出会い、時と空間を自由に移動できる宇宙船「フェニックス号」を建造してもらいましたので、私達の活動の場が大きく広がる事になりました。

私達はこれから、地球を基盤として天の川銀河の新生に向かって動き始める事になります。

そのために、私達はこの地球の過去の文明や今でも地球の異なる次元に存在するシャンバラなどの次元に入り、その次元のマスター達と共に協力して、地球の進化を進めていく事になります。

しかし、私達が入った過去の文明が残る別次元の世界は、素晴らしいマスター達が納める次元もありましたが、時として目を覆いたくなるような悲惨な状況に陥っている次元もありました。

今回のシリーズは、地球の多次元にわたる世界の再建と統合のお話です。

私が個人アチューメントを行っている時に、マスター達との話の中で、地球の様々な次元に散在する過去の文明や叡智ある存在達が現在でも活動している次元（世界）の再統合を行うように指示がありました。

それは、これから地球が新しい地球として再統合される時、それらの次元（世界）も再統合される必要があるためです。

私達はまず、マスターの導きによりシャンバラとムーに入る事になりました。

シャンバラとムーの文明はとても関係が深く、共に人類の進化などにも深く関わっているようでした。

特に、人類の進化にとって不可欠な遺伝子の操作というのは、とても難しい問題です。

私達人類が、2000年前の紀元0年頃を境に大きく成長して、現在の文明を作り上げていったのも遺伝子の変化と大きな関わりが

あります。

また過去に起こったいくつもの文明も、今までの地球人には無いすぐれた遺伝子と能力を持った人々によって生み出されてきました。

しかし、遺伝子操作が他の人々や生命に対する支配を目的として使用されてしまうと、必ず道を誤り、人類と文明の破滅を引き起こしてしまいます。

シャンバラとムーの人々も、遺伝子操作の技術を持っていましたが、それがまた自分達の文明を滅ぼしてしまう大きな原因となった事も知っています。

彼らは、過去の文明の破滅を反省し、より高度なシステムと倫理によりそれらの技術を保存しているようでした。

私達が以前シャンバラに行った時には、この世界には意識の高い人々しか入れない、と言われた事があります。

彼らは、自分達の世界を守るために、そこに入る人達を制限して自分達の世界を守っていたようです。

昨年秋頃に、再訪した時は、私達は喜んで迎えられ、シャンバラの中を案内してもらいました。

そしてシャンバラのマスターから「やがて、あなた達と共に仕事をする時が来るであろう。」という事を言われました。

今回は3度目の来訪ですが、現在の私達は、いくつもの星々を周り、様々な問題を解決してきましたので、地球の古代文明が存在する次元に深く関わるための能力と叡智を身につけています。

私達がシャンバラに着くと、マスター達が急いで出てきてくれました。

私達を神殿に迎え入れ、シャンバラのマスター達と少し話をする事にしました。

「シャンバラとは、かつてレムリアやアトランティスと同じ時代にこの地球に生まれた文明の一つです。

私達を指導していたのは、シリウス星と関連の深い星から来た人々でした。

私達は、高度な天文に関する叡智や宇宙の光とエネルギー、星の配置等が、人類やこの地球に及ぼす影響を詳しく学びました。

そして、宇宙の均衡とバランスを保つために、「宇宙の大地」の事や成長の原則についても学びました。

私達は、シャンバラの叡智を地球の人々と分かち合うために、私達の次元はこのままに保ちながら、さらに物質的な世界を生まだす事にしました。

それがムーの文明です。

現在のインド洋から太平洋のあたりを中心に生まだされたムーの文明は、地球上の生命達や人々にも大きな影響を与えました。

それは、ムーの人々は、この地球の人々を豊かな精神を持つ民族にする事を目的として生ま出されたからです。

私達の指導者は、私達が成長するに伴い、他の民族との協調性を望まれました。

ある時期までは、レムリアやアトランティスとの交流を保っていましたが、レムリアやアトランティスの人々が、意見の相違のために争いを始めるようになると、私達は自分達の独自性を守るために、彼らとの交流は避け、自分達独自の文明を発展させるようにしたのです。

それまでは、ムーの人達は、海洋航海と天文学に対する深い知恵を持っていましたが、私達はその叡智を奪われる事を恐れ、アトランティスの人達との交流を禁じました。

その事を恨みに思ったアトランティス人によって、私達も彼らの争いに巻き込まれていくようになってしまいました。

やがて、ムーの文明は、多くの人々達が傷つけられ、その叡智をシャンバラに移し、滅び去っていったのです。」

マスターはとても寂しそうな顔をして語ります。

「私達は、いつか再び、地球に生きる人類のために、必ずお役にたてる日が来る事を信じていました。

私達は、ムー文明の叡智あるマスターと共に、地球の人類達が、これ以上破滅的な活動を起こさないように、人類に光を送り守護してきたのです。

そして、人類の愛と叡智を活性化するための光を送り、DNAの活性や修復のための試みを行ってきました。

それはこの地球が、人類の遺志により破滅を迎える事になったら、この地球をよりどころとしている多くの叡智ある文明や次元(世界)が滅びてしまうからです。

私達だけでなく、レムリアやアトランティスの素晴らしい叡智も失われてしまいます。

私達は、常にこの地球と地球の人々を見守っています。

そして、あなた方がマスター達によって生み出され、この地球とさらに大きな宇宙を新たな世界へと導いてくれる事を、私達は信じています。」

私は、シャンバラのマスターに現在のシャンバラの様子を訪ねました。

「シャンバラも決してベストな状態であるわけではありません。

私達の次元のよりどころとなるクリスタルも傷つき元気がありませんし、仲間達もすこしずつ少なくなっています。

また、私達には、これ以上地球の人々に大きな影響を与える能力も力も残っていませんので、ムーの叡智ある存在達と相談して、これから最後の仕事に取り掛ろうとしていたところです。」

私は、シャンバラのマスターに、この次元の原動力となるクリスタルのもとに連れて行ってもらいました。

PART2 シャンバラの復活

確かに、シャンバラのクリスタルは輝きを失い力がありません。

私はフェニックス号を呼び寄せ、このクリスタルを新しいホーリー・クリスタルに変えてもらいます。

クリスタルは、見事に輝き始め、シャンバラ自体が美しい光に照らされていくようです。

次に、彼らの活動を行うためのシステムも見せてもらいましたが、さすがに古い感じがします。

私は、機械工学に詳しい鳳凰族のベラトリックスやマスターA、そしてコロボックル達を呼び寄せ、このシステムを新しいものにしてもらうようお願いしました。

私達は、彼らがその仕事をしている間に、こ

の次元に光を送っている場所へと向かう事にしました。

シャンバラのマスター達もすべて集め、フェニックス号に乗り込みます。

シャンバラのマスターの1人が、行く先について船長と打ち合わせを行います。

どうやら、シャンバラのエネルギーの源は、私達が「宇宙の大地」と呼んでいる場所のようです。

私達は、「宇宙の大地」とシャンバラのホーリー・クリスタルの光をつなげるために、ブラック・ホールの中に入ります。

ブラック・ホールの中を進むとフェニックス号が異常なエネルギーを検知しました。

モニターで見ると、ブラック・ホールの中に大きな隕石のようなものがたくさん散らばり、その場所のエネルギーが大きな異常を示しています。

船長が言うには、

「これらの隕石は、ブラック・ホールとシャンバラのエネルギーの循環を妨害するために、故意に投げ込まれたようです。

これらの隕石を片付ける事で、きっとシャンバラと「宇宙の大地」のエネルギーの循環は良くなる事でしょう。」

船長は特殊なレーザービームのようなもので、この隕石を破壊し取り除いていきます。処理が終わると、異常なエネルギーもなくなり、「宇宙の大地」への道がつながります。私達は、さらにブラック・ホールの中を進み、「宇宙の大地」へと向かいます。

「宇宙の大地」に着くと、「宇宙の大地」のマスターが私達を喜んで迎えてくれます。彼も、シャンバラとの通路に、異常なエネル

ギーが発生している事を気づいて心配していたようですが、私達がそれを取り除いた事を知って安心しています。

「シャンバラのマスター達よ、私は、あなた方がここに来てくれる事を長い間待っていました。

あなた方は、地球のみならず、天の川銀河に安定と成長のバランスを保つために、地球に送りこまれ、シャンバラを作りました。

地球の神聖なるヒマラヤの奥に位置し、地球と宇宙の安定のために、「宇宙の大地」のエネルギーと地球をつなげる事がその大きな役目でした。

そうする事で、地球の文明は、安定感のあるバランスが取れたものになっていくはずでしたが、あなた方のクリスタルと私達のクリスタルの光が、突然途切れてしまってから、地球は安定感を失い、空に放たれた風船のようにふらふらとさまよい続けました。

そのために、多くの文明の指導者達が、宇宙の真実の道から外れ自己中心的な活動に走ってしまったのです。

それ以降、地球には争いと文明の興亡が後を絶たなくなってしまうました。

しかし、再びシャンバラと「宇宙の大地」が一つにつながる事によって、地球は安定感のある世界へと戻っていくでしょう。」

シャンバラのマスター達もその言葉を聞いて涙を流しています。

自分達の故郷に戻ってきて、自分達の本当の役目を知ったようです。

私達は、シャンバラのマスターと「宇宙の大地」のマスターとの間に光をつなぎます。

そしてフェニックス号を仲介として、「宇宙の大地」とシャンバラを光でつなぎます。

ブラック・ホールの中を光が走り、白い光でブラック・ホールが埋め尽くされます。

しばらくすると、シャンバラに残っていたベラトリックス達からも、「宇宙の大地」の光がシャンバラのクリスタルに満たされた事を知らせる連絡が届きました。

私達は、再び「宇宙の大地」からシャンバラへと向かいます。

シャンバラでは、ベラトリックス達が、彼らの機械を大きく作り変えて最新型にしているようです。

戻ってきたマスター達も、その変わりように大喜びです。

これでシャンバラも新たな活動が始まります。

第2章 遺伝子の働きを整えるムー

PART1 荒廃したムーのスピリチュアル次元

私達はシャンバラを後にしてムーの文明へと向かいました。

ムーはシャンバラとはとても関係が深い場所です。

シャンバラの人によって、この地球に楽園を作り出すために創造されたのがムー文明なのです。

私達が、ムーの神殿に着くとムーのマスター達が迎えに来てくれましたが、この世界の雰囲気はとても暗く重だるい感じがします。神殿に連れて行ってもらいましたが、神殿も荒れていて十分に使われていないようです。

私は、この様子をムーのマスターに尋ねました。

マスターが恥ずかしそうに答えます。

「実は、私達にもわからないのです。

ムーがある時、大きな衝撃を受けて破壊されてしまいました。

叡智ある存在達は、この事を予測して、スピリチュアル次元に逃げ込みましたが、それからというもの、この次元もどんどん活気を失いパワーがなくなってきています。

私達は、この次元の母体となる地球が意識進化を行う事で、それが解決するのではないかと思い、地球の人達に遺伝子を活性化するための光を送ろうとしています。」

私達はまず、神殿の奥にあるクリスタルを見せてもらいます。

クリスタルはとても大きくこの次元のエネルギーを支えるために、少しばかりは輝いていますが、本来の輝きとは全く異なるようです。

簡単に言うならば電力不足の電球です。

私達は、フェニックス号にお願いして、新しいホーリー・クリスタルを準備してもらい、このクリスタルと入れ替えます。

新しくクリスタルが、燦然と輝き始めると、ムーの次元も途端に明るくなりました。

ユニバーサル・パレスを呼び、このムーの次元に光を送り、さらにエンパワーメントしてもらいます。

私達は、ムーのマスターに、遺伝子を活性化するための装置を見せてもらいました。

その装置は神殿の地下にあり、シャンバラと同じように古びており旧式のものです。

はっきり言って、このような旧式の機械で、人間の遺伝子を活性化するといわれても不安です。

私達は、ベラトリックス達を呼び出し、このシステムも修理してくれるようお願いしました。

私は、マスターに、ムーの原動力はどこから来ていますか、と尋ねました。

マスターは、「宇宙の遥か彼方にある太陽」と答えましたが、現在ではその光も十分届いていないようです。

恐らく、この「宇宙の遥か彼方にある太陽」とムーの次元をつながない事には、やがてこの次元も壊滅してしまう事でしょう。

私達は、ベラトリックス達が、機械を修理し

ている間に、ムーのマスター達と共に、フェニックス号で、「宇宙の遥か彼方にある太陽」との光の通路を改善する事にしました。私達は、細々と送られてくる光の道筋を頼りに走っていきます。

PART2 分離されたムーの世界の統合

するとフェニックス号の行く手にとても大きな緑色の光を持つエネルギーが、その道をふさいでいます。

これはどうも、ムー文明ととても大きな関係がある物の様にみえます。

ムーのマスターに聞いてもわからないという事でしたので、ムーの次元を統括する古いマスターを呼び出します。

私達の前に現れたのは、とても長い白ひげを蓄えた仙人のようなマスターです。

私達は、彼にこの緑の物体についての説明を求めます。

「ようやく、皆さんが来てくれた事をうれしく思います。

私はここで、いつになったらみなさんが来てくれるか思い悩み、ずっと待っていました。ここは、かつてムーのスピリチュアル次元の一つになって、地上に豊かなムー文明を形作っていた次元です。

緑がとても豊かに茂るその世界はとても美しく、多くの生命達が楽しく生きていました。ムーの人達はとても陽気で、太陽を信仰し、いつも歌い踊って毎日を楽しく暮らしていました。

それほど高いレベルのテクノロジーや文明を築いたわけではありませんが、この地球と

共に生きてきた人種でした。

しかしそれこそが、彼らの大切な使命だったのである。

地球と共に生きる人が多ければ多いほど、地球のエネルギーは安定します。

しかし、大地のエネルギーを分かち合う人が少なくなり、高次のテクノロジーばかりが進んでいくと、地球のエネルギーは不安定になり、バランスが崩れてしまうのです。

そうすると、「宇宙の大地」のマスター達が、地球のバランスの不安定さを解消するために、高度なテクノロジーを誇る文明達を消滅させなくてはならなくなるのです。

このムーの文明は、地球の安定のために作られた文明でしたが、アトランティスとレムリアの争いに巻き込まれて崩壊してしまいました。

大きなエネルギーの歪みがムー文明を襲い、ムーのスピリチュアルな次元と物理次元を分離させてしまったのです。

そして、物理次元は、ここまで飛ばされてしまい、ムーのスピリチュアルレベルに送られる太陽の光をここで遮断してしまいました。

それ以来ムーのスピリチュアル次元は元気を失い、十分にその役目を果たす事が出来なくなりました。」

ムーのマスターは、そこまでしゃべると、私の事を見て、にこにこしています。

恐らく、かつてムーが健在だった頃、私と共に活動していた事を思い出したようです。

私はマスターに尋ねます。

「それでは、この物理次元とスピリチュアル次元を統合しなければなりません、この次

元にホーリー・クリスタルをおろし、スピリチュアル次元と統合したいと思いますが、ここに降りる事ができますか？」

ムーの長老は首を横にふりながら言います。「この次元はとても不安定です。

あなたを降ろすわけにはいきません、この私が行きましょう。」

これは自分の仕事であると、長老は言います。

私は、フェニックス号に、ホーリー・クリスタルをこの次元に降ろすようお願いしました。

そして、次元の調整が得意な巨人族のスティックス達も一緒に行ってもらいます。

私は、次元の環境を整えるためのゴールド・ボックスをスティックスに持たせます。

長老達が、緑色の次元に降りていきます。

フェニックス号からゆっくりとホーリー・クリスタルが、緑の次元の上におろされ設置されます。

緑の次元がゆっくりと固まってきて形を成していきます。

長老も、自分の杖を高く振りかざし祈りをささげています。

クリスタルの光が、どんどんと広がるにつれ、その次元は大きく形を変えていきます。

その時、ムーの長老が、形を変える光の中に飲み込まれていきます。

手に持った杖を振りかざしたまま、杖から大きな光を放ち、緑の次元と一つになっていくかのように、次元の中に沈み、その姿が見えなくなってしまいました。

私は、「長老！」と叫びます。

スティックス達が、急いで長老のもとに駆け

寄りますが、長老の杖がそこに残されたまま、長老は緑の次元の中に飲み込まれていきました。

確かに、私達がその場所に降りていたらとても危険だったかもしれません。

その時、私の心の中に、長老のこやかな顔が浮かび、私に語りかけます。

「本当にあなたは、立派になられた。あの頃もムーのために一生懸命に働いてくれた。

この分離したムーを救いに来るのは、あなたしかいないと思っていたよ。

そしてあなたは、やってきてくれた。私は思い残す事なく、ムーの大地に帰っていくよ。

私の仕事は終わったので、これから安らかな眠りにつき、緑豊かで美しいムーの夢を見る事にするよ。

ありがとう……」

私の頬を一筋の涙が流れ落ちます。緑の次元が固まり落ち着いた頃をみはからって、スティックスにゴールド・ボックスを開くように命じます。

ゴールド・ボックスから色鮮やかな光があふれ出します。

緑の次元から、大陸が生れ、海が生れてきます。

やがて小さな植物が茂り、どんどん大きな樹に成長し、森が出来上がってきます。

小さな動物が楽しそうに走り始めています。きっと長老もあまりにも早く緑の大地が成長していく事に驚いている事でしょう。

それこそ、夢を見ている暇もないくらいに、新しい仕事が始まるもです。

私達は、この物理次元と地球の別次元に残されたスピリチュアルな次元を統合するために、2つのクリスタルを光でつなぎます。そして、この2つの次元の統合を手伝ってもらうために、ユニバーサル・パレスや鳳凰のマスター達からも大きな光を送ってもらいます。

私達の目の前にあった緑の次元が、スーと色が薄くなり消えていきます。

きっとスピリチュアル次元の元に戻っていった事でしょう。

その瞬間、緑の次元の向こうから、大きな光が勢いよく走り抜けていきます。

その先には、キング・オブ・サン、クイーン・オブ・ムーン、そしてキング・オブ・ライトの3人組が立っています。

彼らが、ムーの光を形作っていた大元のマスターのようです。

その時、ベラトリックスから連絡が入ります。

「TAKESHI さん、でかいやつが飛んできたわよ。

こちらの方でも、統合のための処理に入りましたので、ゆっくりと戻ってきてくださいね。」

私達は、これで安心して、ムーのスピリチュアル次元に戻る事にしました。

私達が戻ると、ムーのスピリチュアル次元は、とても豊かなエネルギーに満たされ、パワフルになっています。

太陽の光が、さんさんと降り注ぐ楽園のような感じですよ。

システムの方も新しくなっており、ベラトリックス達が、ムーのマスターに操作法を教えてください。

これで、私達も一安心です。

さすがに旧式の機械、おまけにエネルギー不足のシステムから、自分達の遺伝子を活性化するといわれても、「やめてください！」としか言えないですよ。ムーのマスター達も喜んで笑っています。

PART1 ポセイドンの願い

私達が、風の神殿のアチューメントをおこなっているとき、風の神殿を守るポセイドンが現れ、私達にアトランティスへ来てもらいたいと伝えてきました。

アトランティスは、高度な文明を誇りながらも、クリスタルや遺伝子操作の乱用によって破滅を迎え、海の底に沈んだ文明として知られています。

海の守護神であるポセイドンはアトランティスの守護神でもあり、オリンポスの神々の中でも代表的な神でもあります。

私達の中でも、ゼウス達と共に星々の文明の創生に関わる創造神とされています。

ポセイドンは、昨今の地球の気象について、新しい地球が生れてくる前触れなので、このアトランティスの統合を行い、地球のエネルギーとアトランティス、そしてオリンポスの神々の光をつないでほしいと頼んできました。

私は、ポセイドンにアトランティスの状態について教えてくれるように頼みます。

「現在のアトランティスはとても不安定な状態です。

アトランティスのより高次なスピリチュアルの世界は、私達オリンポスの神々のもとにあります。アトランティスの物理次元は、海の底に沈み、苦しみや悲しみのエネルギーに満ちあふれていてどうする事もできません。

ただ、一部の叡智ある存在達が、海の底から浮上し、かろうじて私達とコミュニケーションが取れる状態ですが、この次元も非常に困難な状態にあります。

また、私達の次元を繋ぎ合わせるフェアリー達の世界も、海の底に沈んだアトランティスのエネルギーによって、光が遮られ今にも、崩壊しそうな状態です。

どうかあなたのかで、アトランティスを救ってあげてください。」

ポセイドンがとても苦しそうな顔をして頼んできます。

PART2 傷ついたフェアリーワールド

私達はすぐにフェニックス号で、アトランティスへと向かいます。

まずは、物理次元のネガティブなエネルギーによって板挟みになっているフェアリーワールドに向かいます。

私達は、フェアリーの世界に着くと、すぐにフェアリー達を呼び出しました。

フェアリー達が出てきたのですが、皆さん驚くほどに傷つき疲れきっています。

その悲惨な姿に、フェアリーワールドの状態が見て取れます。

この空間すべてにノイズが入り、フェアリー達も歪んで見えるほどです。

私達は、フェアリーワールドの神聖なる場所にあるクリスタルのもとに急ぎます。

やはりクリスタルも傷つき輝きがありませんし、このフェアリーワールドの空間自体が、ネガティブなエネルギーによって押しつぶされそうです。

私はすぐに、フェニックス号を呼び寄せ、特別強固なホーリー・クリスタルを準備させました。

それを神聖なる場所に安置すると、すぐにユニバーサル・パレスから光を送ってもらいます。

押しつぶされそうになっている空間がもとに戻っていくようです。

その様子を見て、多くのフェアリー達が喜びの声を上げています。

このクリスタルを取り囲んでいるかわいい神殿も、このクリスタルに合わせて立派な神殿に作り替えます。

私は、このフェアリーの次元を立て直すために、白鳥座のフェアリーの女神アルターニャにお願いして、先日作り上げたフェアリー・エンジェル達を、できる限りアトランティスのフェアリーワールドに回してもらうように頼みました。

クリスタルの中から、立派な天使の羽を持ったフェアリー達が、黄金色に輝きながらたくさん飛び出してきます。

通常フェアリー達は、植物や動物達を育てる事が仕事ですが、フェアリー・エンジェルは、その次元や星の自然環境を作り出し、星の生命を育てる働きを持つフェアリーです。時としてエンジェルと同じように、自らの意思をもって、人々の指導をおこなう力強いフェアリー達です。

今回の様に、フェアリーの世界自体が危機に瀕した時には、とても力強いサポートを行い、その危機を打開してくれます。

私は、傷ついたフェアリー達をクリスタルの

前に集め、アルターニャの光やより高次のフェアリー達の光を呼び寄せます。

フェアリー達は、基本的にエネルギー体なので、より高次の光を受ける事で、自分達をすぐに回復させる事ができます。

フェアリー達の体がどんどん輝きを増してきます。

とても軽やかな光とエネルギーが彼女達から、周りにあふれ出てきます。

私達は、次にこの次元のクリアリングを行う事にしました。

この次元に残っているアトランティスの物理次元からもたらされた「悲しみや憎しみの感情」などの不要なエネルギーを浄化していく必要がありますので、浄化のためのマスターAからもらった5色の光を用います。

特に観音様の人の感情を癒す銀色の光をこの次元の隅々にまで満たします。

そしてユニバーサル・パレスの光も送ります。すると、このフェアリーワールドを包み込んでいた重苦しい壁がどんどん薄くなり、フェアリーワールド自体が光り輝き始めます。ここまで来たら、後の修復は問題なく行われていく事でしょう。

私達は、ここはフェアリー・エンジェル達に任せて次の世界に行く事にしました。

PART3 アトランティスの生き残った人達の世界

次に私達は、アトランティス大陸の水没の時にかろうじて逃げる事ができた人々のもとに連れて行ってもらいました。

彼等は、アトランティスが壊滅する事を予想

して、アトランティスの神聖なる叡智を保持するために、特別な空間を作り、そこに叡智を保存して次の世界のために備えを行っていたようです。

しかし、アトランティスの壊滅が思ったよりも早く起こったために、十分な準備をする事ができなかつたようです。

その世界は暗く重たい雰囲気閉ざされ、周りの様子もよく見えません。

私は、マスターAにお願いしてこの次元の浄化を行ってまいります。

私はその間に、ポセイドンとこのアトランティスの事について話をします。

「海に沈んでしまったアトランティスは、皆さんのお考えの様に、クリスタルエネルギーの乱用や遺伝子操作によって自分達に都合がよい種族の創造などを行いました。

そして、一般の人達を抑圧し、自分達の利益のために酷使することで多くの犠牲をうみだしてきました。

そのために、海の底に沈んでしまったのです。

アトランティスは、もともと私達オリンポスの神々と呼ばれていた者達が指導していた世界です。

アトランティスの人々が、私達の指導をはねのけ、暴走してしまった事は、私達の責任でもあります。

私達は、その事を悔やみ続け、今後の教訓としてきましたが、地球はまた再び、同じような危険な状態を迎えつつあります。

このアトランティスが、遺伝子操作や様々なテクノロジーを乱用し崩壊した事によって、多くの人々の魂が、いまだその時の恐怖の中に捕らわれています。

多くの善良な魔法使い達が、自らの力を呪い、魔法を使ったり、宇宙の真実を探求する事を恐れ、その世界から遠ざかりました。

優秀なヒーラーや神官も、神から見捨てられたと思い、神を呪いました。

また人を癒すため祈りも効果がなく、自らを傷つけるものだと思われ、神と深くつながる事や癒しを行う事を恐れるようになったのです。

多くの素晴らしい能力を持った者達が、自分の能力を発揮する事を恐れ隠れています。

そのために、この地球のエネルギーは、とても歪んだものになってしまったのです。

このアトランティスの苦しみや悲しみが解放され、アトランティスの呪縛が解かれる事を私達は望んでいます。」

私達が、話をしている間にこの世界の浄化が終了したようです。

来た時に比べると、とても美しい海や海岸線、緑が映える野原も見ることが出来ます。

私達は、この次元の神聖な場所へと案内してもらいました。

その場所には、驚いた事に体全体がうろこに覆われ、えらをもつ半魚人のような存在がたくさん集まっています。

きっと海の中で生きてきたためにこのような姿になったのでしょう。

私達は、その場所にある暗くひび割れたようなクリスタルを新しいホーリー・クリスタルに交換します。

ユニバーサル・パレスからもこの場所に光を送ってもらいます。

光は、どんどん周りに広がり、半魚人達の体も光で満たしていきます。

するとそこにポセイドンだけでなく、アトランティスを守護するオリンポスの神々も集まってきました。

大神ゼウス、冥府の神ハデス、アフロディティ、アテネ、太陽神アポロン、月の女神アルテミス。

彼らが、大きな輪を作り半魚人達に光を送っています。

すると、半魚人達の体から、うろこがぼろぼろと落ちて美しい肌が現れてきます。

顔からもうろこが取れ、本来の顔に戻っていききました。

彼らはお互いの姿を見ながら、とても驚いているようです。

ポセイドンは、私に言います。

「彼らは自分自身に対する後悔の気持ちで、自分自身に対して呪縛をかけてあのような姿になってしまいました。

昼間は日の当たらない海の中で暮らし、夜になると陸に上がってきます。

彼等は自らが築き上げた叡智を忘れかけていました。

しかし、あなた方が光をもたらしてくれた事により、彼らは自らの呪縛を解き放ち、自由になったのです。

彼等はやがて、自分達の叡智を思い出し、我々、オリンポスの神々の事も思い出してくれるかもしれません。」

ポセイドンは少し悲しげです。

彼らが自分達の叡智を思い出し、昔のような優秀な種族に戻るためには、計り知れない時間が必要なようです。

私は、ポセイドンに、新しい種族を生みだす事を提案しました。

このアトランティスで、アトランティスの叡智を受け継ぎ、新たな光のアトランティスを生み出す種族を作る事を進めたのです。

ポセイドンは大喜びです。

ゼウスやポセイドン、アルテミス、アフロディティなどの神々の遺伝子と大天使メタトロン、大天使サンダルフォンの遺伝子と光を組み合わせて、新しい光の種族を生み出す事にしました。

ユニバーサル・パレスの光もおろしてもらい、そこに大きな光が生み出され、その光の中から、一人また一人と歩み出てきます。

「神々の子」といっても過言ではない美しい存在です。

神にも天使にも深くつながる美しさ、叡智、能力を持っています。

最初のアダムとイブはこのような姿だったのかなと思わせるような美しい姿です。

私達は、この場所に彼らのために新しい神殿を作り、ネオアトランティスの神殿と名前を付けました。

もちろん彼らこそが、ネオアトランティスの新人種です。

私達はここで、ゴールド・ボックスを開き、この次元の自然環境を整え、他の次元との統合の準備をします。

美しい自然が広がり、この次元そのものが拡大していきます。

私達は、この次元から海の底に沈んだアトランティスの次元の扉を開く事にしました。

ポセイドンに言わせると、海の底に沈んだアトランティスは、ネガティブなエネルギーによって何重にも覆われ、特別な星の配置の時でなければ、その次元を上昇させる事は、難

しいという事なので、せめてこちらの次元から光を送る事をしたいと思ったからです。

海の底に沈んだアトランティスとこの次元をつなぐ場所は、頑丈な扉で覆われています。魔法使い達によって、ネガティブなエネルギーが、外にあふれ出ないようにシールドを張って守っているようです。

私達は扉の中に入ります。

中は真っ暗でとても寒々とした洞窟の様になっています。

奥には、壊れかけたクリスタルがあります。私達は、フェニックス号から、ネガティブなエネルギーを浄化する働きを持つブラック・クリスタルをおろしてもらい、この中に設置します。

そして、ユニバーサル・パレスや太陽と月の女神、キング・オブ・ライト、4大エレメントのマスター達にお願いして、この場所から、海の底に沈んだアトランティスまで光を送ってもらいます。

PART4 海に沈んだアトランティスの悲劇

私達は、この後、不可能と思われていたアトランティスの復活を試みる事にしました。この時、私と共にアトランティスに向かった「宇宙の光」のメンバーは、まさにこの時期にアトランティスの崩壊に携わった過去世の記憶を持つ者達ばかりでした。

私は、彼女達のスピリットをとおして、アトランティスが崩壊した本当の理由を知る事となりました。

「アトランティスの崩壊は、アトランティス

に住んでいた一部の人達によって計画されました。

それは、アトランティスの指導者達が持っていた遺伝子操作などの技術が乱用され、誤った方向に進みすぎたためです。

彼等は地球上の多くの人々や生命を支配し、弾圧しただけでなく、高度な天文学の知識と技術によって地球だけでなく、ほかの星々にまで影響を及ぼそうとしました。

意図的に星の運行を変化させたりする事で、自分達の都合の良い世界を作り出そうとしたのです。

彼らが行った遺伝子操作は、生物に特殊な遺伝子を組み合わせる事で自分達にとって都合がよい種族を作りあげる事が目的でした。彼らは、いくつもの遺伝子を組みあわせ様々な種族を生みだす研究を行っていました。

また、自分達自らの遺伝子を純粋培養する事によって、神のような存在に自分達をしようとしたのです。

そして自分達よりも劣る種族を奴隷のように扱い利用しようとしていました。

このままでは、アトランティスの叡智も失われ、人々の自己満足や傲慢さによって、地球のみならず他の星々までも破滅させる恐れが出てきたために、私達は、アトランティスを海の底に沈めてしまう事を決断しました。もちろん、一部の支配者達だけでなく、なんの罪もない善良な人々や純真な子供達、多くの素晴らしい動物達も一緒に海の底に沈めてしまう事に対して、私達の仲間の多くが反対しました。

もちろん自分達の愛する家族も、共に海の底に沈んでしまいます。

それは多くの苦しみと悲しみを必要とする

判断でした。

しかし、私達は決断しました。

彼らを説得する事はすでに不可能であり、支配者に反抗的な人々は、すぐに捕まえられてその命を奪われる事が増えてきたからです。私達は、このままでは自分達の命どころか、多くの罪のない人々の命、さらには地球の他の地域の人々にも多大な被害が出る事をおそれ、急いで行動に移る事にしました。

私達は、地球の地軸を動かし磁場を変更する事で、アトランティスの近くに大きな地震を発生させ、地殻変動を起こしました。

その地震によって、大きな津波がアトランティス大陸を襲い、大陸は地殻変動の中にのみこまれていったのです。」

彼女のスピリットが深い苦しみと悲しみの中で涙を流している事が分かります。

私にも、彼女が最後に見たアトランティスの光景が浮かんできます。

きれいに整えられえた街並み、まだ夜明け前です。

町がまだ眠りについている間に、大きな津波が町を飲み込んでいきます。

建物が崩壊し、たくさんの家具や人々が流されていきます。

彼女が涙ながらに話し続けます。

「私達は、アトランティスの叡智を少しでも残すために、ほかのグループにも協力してもらい、一部の人を別の次元に移す事も試みしました。

いつか時期が来たら、アトランティスの叡智を再び復活させる事で、今回の苦しみと悲しみを償おうとしたのです。

多くの仲間達も、アトランティス大陸と共に

海の底に沈む事を選択しました。

私達は、最後まで愛する家族達と共にいたかったからです。

しかしこの事によって、私達は自分達の能力や叡智を封印してしまいました。

アトランティスの記憶があまりにも悲しく苦しかったために、この時代に持っていた様々な能力に触れる事を、私達はとても恐れました。

そしてこのような能力や叡智を使う事を自ら禁じたのです。

自分達が同じような過ちを二度と繰り返さないようにしたのです。

私達は、何度も生まれ変わりましたが、そのたびごとに、科学技術や遺伝子操作、魔法、癒し、神々、宇宙などに対して強いブロックが起こり、それらから目をそらすようになりました。

そしてそのために多くの人々が精神的な混乱をおこし、不安や恐れの中で生きていく事になったのです。」

私は、先ほどアトランティスの叡智を保存する空間が新しく生まれかわり、素晴らしい種族が育っている事を伝えました。

彼女は、涙の中にも笑顔を浮かべました。

「でも多くの人達が、いまだ海の底に沈んでいる事でしょう。

一瞬のうちに起こった津波のために、自分自身が死んだ事にも気づいていないかもしれません。

あるいは、家族と引き離され、絶望の中で苦しみ続けているかもしれません。

でも、私達が、決断しなければ、アトランティスや地球のほかの文明の人達も、見るに堪

えられない現実を作り出したかもしれません。

話し合いや交渉によってアトランティスを変える事ができませんでした。

私達の仲間もたくさん連れていかれたし、私達がアトランティスを、海の底に沈めていなければ、きっと神々が、この地球ごと消滅させ、全てが存在できなくなる恐れもあったのです。

アトランティスの仲間達は、この地球を救うためにアトランティスのみを海の底に沈めたのです。」

今このメンバーは、深いところで海の底に沈んだアトランティス時代の自分の魂とつながっているようでした。

そして、その魂は、とても大きな罪悪感を持ち、自分だけが助かるわけにはいかないと訴えてきています。

共に沈んだ多くの魂の嘆きが、彼女を通して助けを求めてきています。

PART5 アトランティス人の魂の救済

その時、髪の毛の長い一人のマスターが、私達の前に現れました。

彼は、このメンバーの魂を守護する者であり、シャンバラ、ムー、レムリア、アトランティスを守護し導く者である事を告げてきました。

そして、新しい文明や次元を作り出し発展させるために、多くの魂達を運ぶ役目がある事、アトランティスの大陸と共に沈んだ純真な魂を救う準備がある事を伝えてきました。

彼の後ろには、魂を運ぶ役目を持つワシ族や

コンドル族達がたくさん控えているようでした。

私は、ポセイドンが、アトランティスの救済は、星の配置によらなければ難しいといっていました。高次のマスター達がそろえば今でも十分に救済できるのではないかと思い、手伝ってくれるマスター達を呼び寄せました。

まず現れたのは、ワシ族の長老です。

「私達は、網を使って、多くの魂達を救い上げる事ができます。

多くの苦しみや悲しみに満ちた魂を引き上げる事で、このアトランティス大陸を軽くしましょう。

きっと鳳凰族やミミズク族達も手助けしてくれます。

助けた魂達をどこかに運ぶ事もできます。」

次に現れたのは観音様です。

「私は多くの苦しみや悲しみにとらわれた人達を、その思いから解き放ちましょう。

そして魂を慈愛で包み、魂がもっと自由になるように解き放ちましょう。」

ドラゴン達も現れます。

「私達は、手にした玉をアトランティス大陸に投げ込みます。

すると、アトランティス大陸がどんどん軽くなり浮上してきますので、鳥族の人達が、その間に魂を救済してください。」

もちろん天使族も、大空に沢山の天使達を待機させています。

「天使達は、すでに生命を落とした魂達を光の世界へと運びます。

多くの苦しみやかなしみの思いを癒し、新た

な旅立ちのために準備を行わせます。」

私は、アトランティスの救出のためには、星の配置が必要だと言っていた、ポセイドンの方を見ると、ポセイドンはもうやる気満々です。

「TAKESHIさん、早くやりましょうよ。オリンポスの神々も準備していますよ。」自分が言った事も忘れて、張り切っている姿がおかしくて、私達も笑ってしまいました。

アトランティスの人々を救出するために、皆で協力し合って救出を開始します。

まずドラゴン達が海の中にもぐり、周りからたくさんの宝珠をアトランティス大陸に投げ込みます。

様々な色と形をした龍達が、次々と現れては、海の底にもぐり宝珠を投げ入れ、アトランティス大陸の磁場を調整して、大陸を浮かびあがらせようとしています。

スティックス達の巨人族も、中に入り大陸を持ち上げようとしています。

海の上にはたくさんの魔法使いが姿を現し、大陸が浮上していく事を助けています。

やがて、海の中に泡が立ち上り、アトランティスの大陸が海上に浮上してきました。

その瞬間鳥族達が、いくつものグループに分かれ飛び立ちます。

グループごとに、大きな網を持ち、アトランティス大陸の地上すれすれのところを飛び、そこにとどまっている魂達を網ですくい取っていきます。

そして、空間の一部に観音様が準備した光のスペースができており、そこに次々と魂を運びこんでいます。

鳥族達は何回も何回もアトランティス大陸に舞い戻り、魂を網ですくっては観音様の元に連れていきます。

観音様は、光のスペースで癒しの女神、癒しの天使達と協力し合って助け出された魂達を黄金色の光でつつみこみ癒しています。苦しみと悲しみの感情が、多くの魂から分離されて消えていきます。

その後ろでは、このアトランティス崩壊の苦しみと悲しみが癒され魂達を、天使達が一人ずつ光の世界に運びこんでいます。

私は、そのコンビネーションの素晴らしさに感動さえも覚えます。

しかし私達も、まだおこなう事があります。私達は、フェニックス号で、崩壊寸前のアトランティスに時間をさかのぼって戻ります。夜の暗闇に混じり、アトランティスの町に近づきます。

そして特殊なレーダーを使って、何百という家族を選び出し、騎士団達が秘密の内に救出に向かいます。

この事は、私は知らなかったのですが、新しいアトランティスのために、本当に純粋な魂を持つ人々を救い出し、新しい光のアトランティスを共に作り上げる仕事を担ってもらえる人々を現代に運び出すようです。

いくつかの町や村を回り、多くの家族達がフェニックス号に収納されました。

助け出された家族達は、最初、何故このような宇宙船の中にいるのか理解できないようでしたが、やがて大きな津波がアトランティスを襲い、大陸が沈んでいく様子が、宇宙船の窓から見え始めると、やがて自分達のアトランティスに何が起きたのか理解できたよ

うです

海の底に沈んだ人達を思い、いたるところから泣き声が聞こえてきました。

彼らにはすぐに癒しの女神達が付き添い悲しみを癒しています。

私は彼らにかけける言葉もなく、また現代へと戻ります。

PART6 新たなアトランティス

私達が戻ると、鳥族達による救出も中心となる場所は終わったようで、大陸の各所に分かれて、救出が続けられています。

私達は、アトランティス大陸の中心部に入りました。

ドラゴン達が磁場を調整して、大陸を浮上させている間に、この大陸の磁場そのものを調整して、再び海の底に沈まないようにしなければなりません。

私達が、アトランティス大陸に入ると、すぐにゼウスやポセイドン達がやってきて、私達を、アトランティス大陸の神聖なる場所に導いていきます。

そこに入ると、遺跡もまばらで、あるはずのクリスタルも砕け散っています。

私は、フェニックス号にお願いして特別なクリスタルを準備してもらい、この場所に設置しています。

今回設置されたクリスタルは、巨大な細長いクリスタルで天と地をつなぎ、アトランティスに安定をもたらすためのクリスタルのようです。

私達の騎士団とオリンポスの神々によってこのクリスタルの周りに、光の塔が形づくら

れ、その塔の上には、宝珠型の光輝くクリスタルが乗せられました。

この宝珠型のクリスタルは、アトランティスのある一定の空間に固定する働きがあるようです。

ユニバーサル・パレスが、この塔の上空にすぐにやってきて、光を塔に向かって放ち始めます。

クリスタルの宝珠が光輝き、周り一面に光を反射させます。

このアトランティス大陸の次元が軽やかに安定していく様子が分かります。

その後、光は細長いクリスタルを通り、アトランティスの大地深くつながっていきます。

これでドラゴン達も安心したようです。

アトランティス大陸の周りを、何回も巡回したあと、大空に消えていきました。

そこに、全ての光を創造する稲光のマスターがやってきました。

アトランティス大陸全体に稲光が走り、大陸のパワーが目覚めてきます。

そして鳳凰族のマスターもやってきます。

彼は仲間と共に、アトランティスの上を何回も巡回しながら、アトランティス大陸の次元のエネルギーを調整しているようです。

私は、このアトランティス大陸を美しい緑の大陸に戻すために、ゴールド・ボックスを開きます。

そこから、色彩豊かな光が飛び出し、アトランティス大陸が美しく生まれ変わっていきます。

多くの天使達によって、アトランティス大陸に残っていた魂も全てが救い出され、その感情の記憶も浄化されていったようです。

オリンポスの神々は、新たな神殿を聖地に作り、アトランティス大陸のシステムを稼働させていくようです。

そのそばにベラトリックス達が立っているところを見るとアトランティスのシステムも、彼女達によって新しく作り変えられたようです。

アトランティス大陸に、どんどん光が広がっていきます。

アトランティスの叡智の次元で先ほど生みだされたネオアトランティス達も、ここに降りてきました。

彼等は、新しい住民を指導し、神々との仲介役として活動してくれそうです。

私達は、フェニックス号から、アトランティスの新しい住人となる家族達を大陸におろしました。

まだ家も食べるものも十分でない状態ですが、彼らならこれから新しいアトランティスを作り上げていく事でしょう。

私達は、新しいアトランティスが、自然と調和した理想的な世界に生まれ変わる事を祈りながら、アトランティスを後にしました。

第4章 地球最古の文明 ア ンドロメダ文明

PART1 地球最古の文明 アンドロメダ 文明

私達が次に呼ばれたのは、この地球の文明の源となった世界でした。

それはレムリア文明よりも古く、アンドロメダ銀河からきた叡智ある存在達が作り上げた文明です。

アンドロメダ銀河は、とても高い叡智を誇っている銀河で、私達がアールスターと呼んでいる星を中心にアンドロメダ銀河の星々で、アールスター連合というものを形成しています。

アールスター連合は、叡智ある存在達を導き、銀河の発展のために尽力しているグループですが、地球に降りてきたイエス・キリストもこのアールスター連合のメンバーの一人です。

地球の古い時代に起こった文明の源の一つは、アンドロメダ銀河から派遣されてきた人々によって作られたこのアンドロメダ文明でした。

おもに、現在のギリシアなどの地中海地方を中心として発展した文明は、叡智ある宇宙の人々とのコミュニケーションを行う事を目的として作られた文明でした。

アンドロメダ文明の叡智は、地球と他の星との関係を良好に保ち、他の星々や宇宙の叡智をこの地球にもたらすために準備された叡智です。

その当時において、地球が、他の星々の叡智を持つ種族と良好な関係を作り上げ、成長していく事が望まれたのです。

アンドロメダ銀河の中心をなすアールスター一星からも、代表的なマスターであるアールスターや地球でイエス・キリストと呼ばれるマスターも地球に降りてきました。

そして長い時間をかけて、地球にすばらしい黄金時代を築いていったのです。

ところが、長い時間の経過とともに、アンドロメダ銀河から伝えられた神聖な叡智は失われ、科学技術ばかりが横行する文明となっていきました。

そこに住む人々も、自己中心的になり、宇宙の真理とはかけ離れた生き方をし始めたために、人々の社会は乱れ、争いを行うようになりました。

その状況を深く悲しんだマスター達によって、地球に隕石が落とされ、地殻変動や地震が起こり、アンドロメダ文明は滅んでしまいました。

そして、長い年月の中で、この文明の存在は忘れられ、やがて地球の上には新たなレムリア文明が起こってきたのです。

私が、最初にこの文明の事を知ったのは、2013年の秋の事でした。

私が、ギリシアを旅した後に、この文明の時代に生きていた女神から助けを求められた事があります。

彼女は、もうすでに忘れ去られた遺跡の中で、助けが来る事を待っていたのです。

女神は、たまたま旅行で通りかかった私の姿をみて、この人なら助けてくれると思い、私のもとにやってきました。

その時の彼女の姿は、傷つきはて苦しみに満ち溢れていました。

私達は、彼女と共にギリシアの地中海にある過去の遺跡の中に降り立ち、遺跡の中に閉じ込められていた女神を救いだして彼女達の故郷であるアンドロメダ銀河のアールスター星に送り届けた事があります。

その時から、私はこのアンドロメダ文明について、もう少し関わりが残っているような気がしてなりませんでした。

PART2 アンドロメダ文明の叡智ある次元

先日、私達が創造主の神殿に入った時、1人のマスターが私のもとにおとすれ、アンドロメダ文明が滅んだ後に、その叡智を守るために特別な次元を作り、そこに叡智を保持している事を聞きました。

そして、その次元とこの地球をしっかりとつなげてほしい、という事をお願いしてきたのです。

アンドロメダ文明を作ったアンドロメダ銀河の中心的な星であるアールスター星のマスター達とは、私達は親密な関係を持っています。

それは、アールスター星がある事情により次元降下してアールスター連合が崩壊しかけたときに、私達がアールスター星に入り、彼らと共に問題を解決して次元上昇させてあげた経緯があるからです。

それ以来、私達のグループと彼らは共同で仕事を行ってきました。

今回、このアンドロメダ文明の隠された次元

を復興し、地球と繋ぐという事は、アールスター星のマスター達にすれば、とても大切な事なのです。

私達は、フェニックス号でアンドロメダ文明の隠された次元へとたどり着きました。

私達は、フェニックス号を降り、しばらく歩くと、この次元の神聖なる場所へと導かれました。

そこは森の中にある湖のほとりのような場所です。

私達が、到着するとこの次元を守護していたマスターが現れます。

背の高いきりっとしたような男性の姿に見えます。

「私達は皆さんがここにきてくださる事を、心からお待ちしておりました。

私達は、長い間この次元にとどまっていた。

地球では、ベガ星やシリウス星、プレアデイス星団の人達を中心としたレムリア文明やアトランティス文明が生れ、様々な種族や叡智あふれる人々が活躍してきました。

私達は、その様子を見守り、必要に応じて、私達の次元からも使者を送りサポートしてきました。

しかし私達の次元は、地球の物理世界とはしっかりとつながっていませんでしたので、十分な働きをする事はできませんでした。

私達は再び皆さんと共に、この地球に対してアンドロメダ銀河の叡智を分かち合い、貢献していきたいと思っております。」

とても丁寧なあいさつをマスターは行ってくれました。

私達も、マスターの言葉に応じてこの文明の

次元を地球と繋ぐ事にしようと思います。
私達は、この次元の生命の源となっているクリスタルのもとに案内してもらいました。
湖の中に隠されていたのか、クリスタルが水しぶきとともに湖の上に現れてきます。
とても丁寧に扱われているようですが、少しパワーが足りないようです。

フェニックス号をお願いして、新しいクリスタルと交換してもらおう事にしました。
とても細長い美しいスタイルのクリスタルが、フェニックス号から降ろされ、湖の上に浮上したクリスタルと交換されます。

この交換の作業の間、私達は、この次元の地下にあるクリスタル・ドームに入ります。
そしてクリスタルに光を入れ活性化させると、ユニバーサル・パレスを呼び出し、光を送ってもらいます。
ユニバーサル・パレスの光が、湖の上にあるクリスタルを照らし出します。
その光は、地下のクリスタル・ドームを通過して、地球のガイアのクリスタルとつながっていきます。

やがて地球のガイアのクリスタルも反応して、そこから大きな光の柱が立ちあがってきます。
地球とアンドロメダ文明の次元が、光の柱の中に飲み込まれ一つにつながっていきます。
これから、このアンドロメダ文明の叡智ある次元も、地球と一つになり、素晴らしい世界へと成長していく事でしょう。

第5章 レムリアの再生の約束

PART1 レムリアの分離された次元

私達は、私達にとって、最も影響が大きいと思われる文明の次元に、星のツアーのメンバー全員で入る事にしました。
そうです、レムリアです。

私達が、創造主の神殿に入るとすでに、レムリアのマスター達が迎えに来ています。

私達の、活動の目的の一つは、レムリアの叡智をもとに、新しいレムリアをこの時代に作り出す事です。

限りない愛と神聖なる叡智に基づく光の世界を作るために、自分達自らがライトボディとなり、人類と地球の進化に貢献する事が、かつてのレムリアの役目であり、また私達が現在行っている事です。

私達は、多くの星々を守護するマスターや女神、宇宙を運営する創造主やゴッデス達、さらには大天使やフェアリー、ドラゴン達と共に宇宙の星々の再建のために努力してきました。

それらの事も全て、来たるべき地球の統合に向けての準備だったのです。

今、ここに集まったすべてのレムリアンと共に、私達はレムリアの最後の時の約束を果たすために、レムリアに向かう事にしました。私達は、レムリアの滅亡の時に、ドルフィン・アソシエーションと呼ばれるレムリアの神聖なる愛と叡智を復活させるためのグループを組織しました。

そして約束通り、この現代で私達はその魂の

内に秘めた記憶を思い出し、新たなレムリアを作る時が来たようです。

私達は、私達をレムリアの世界へと導いてくれたサラスバティと神官ベガを呼び出しました。

彼らこそが、私達に最初にレムリアの扉を開いてくれた仲間達です。

神官ベガと呼ばれるマスターは、その姉妹であるマーメイド・ベガと共に、古くからレムリアのスピリチュアルな世界を守ってきました。

そして、私達が目覚めた事を知ると、私達にレムリアの悲しい状況を知らせ、その救済のための道を指し示してきました。

私はベガとサラスバティに、現在のレムリアの状況を訪ねました。

「レムリアは、これから進化していく地球と統合を行わなければなりません。

地球の進化のためには、レムリアが持っている神聖な叡智が必要なのです。

この宇宙の新たな次元の扉を開くためのカギとなる叡智であり、皆さんを宇宙の叡智ある存在と育てていく為にはなくてはならないものです。

しかし、皆さんもよくご存じのように、レムリアは、昔の様に神聖なる愛と叡智が満ち溢れている場所ではありません。

高次の世界も存在しますが、その他の世界は、暗く悲しいエネルギーによって閉ざされています。

皆さんが成長し、新たな能力と力を身につける事によって、レムリアは新たな世界としてよみがえる事ができると信じています。

レムリアの高次の世界は、偉大なるマスター

達によって守られています。

大いなる存在の加護により、その世界は守られ、大切な叡智と光が無事に保存されています。

またその世界は、地球の中に存在するいくつもの叡智ある存在達が守護する世界をつなぐための次元でもあります。

そこは、シャンバラやアガルタ、ムーなどの高次の世界ともつながっておりますし、この地球の文明を見守ってきた神々の世界へもつながっています。

しかし、レムリアが崩壊した時、多くの人達は、レムリアの世界と共に、自らの生命を落としてしまいました。

その苦しみと悲しみのために、レムリアのスピリチュアルな次元は、大きく次元降下してしまっただのです。

そこは、閉ざされた空間と呼ばれ、今も残るエネルギーの歪みの中で、いまだ満たされぬ思いと共にあります。

レムリアの統合を行う時には、この世界に残る魂達を救出してあげなければなりません。

またレムリアの物理次元の多くは、崩壊とともに海の底に沈みましたが、一部残された物理次元があります。

私達は、それを「奇跡の地」と呼んでいます。が、地球に住む敬虔な人達の祈りによって守られてきた場所が存在します。

それはヒマラヤの神聖なる場所から秘密の入り口を通して入る事ができますので、後程ご案内いたしましょう。」

神官ベガは話し終ると、私達にすべての希望を託すような瞳で私達を見つめています。

「あなた方が、最後の希望です。」

地球の再統合が始まるまでに、残された時間は決して多くありません。

どうか、レムリアの統合が成功するように、幾時代ものマスター達があなた方を支援する事でしょう。」

PART2 他の世界とつながるレムリアの高次の世界

私達は、創造主の神殿に迎えに来ていたレムリアのマスター達と共に、レムリアの統合に向けての第1歩を踏み出す事となりました。私達は最初に、レムリアに残された高次のスピリチュアルな世界へと向かう事にしました。

そこで、レムリアの高次のマスター達と出会い、協力体制を作る事が、成功への鍵だと感じたからです。

レムリアの高次の世界へ入るために、大きなクリスタルの入り口を開いてもらい中に進みます。

キラキラと輝くクリスタルは、その世界の叡智の高さを表しているように輝いています。さらに丸いクリスタルを抜けて上の次元に入ります。

そこはもうレムリアの高次の世界です。

すでにマスター達が、私達が来る事を知って迎えに来ています。

私達は、あいさつを交わしながら、彼らと共に、マスター達が集まる神殿へと向かいます。そこは、レムリアの最高次元のマスター達が集まる神殿です。

私達を迎えにきたマスターが、「レムリアの

愛と叡智」を守護していたマスター達を紹介してくれました。

レムリアの次元と空間を調整するマスター。
人々の意識を高めるための教育を行うマスター。

スピリットの次元を高く保つためのシステムを稼働させているマスター。

人々や生命達の記憶を管理するマスター。
レムリアの4大エレメントのマスター達もいます。

彼等にはこやかに、私達を迎えてくれています。

レムリアの神殿の奥に私達が入ると、この次元のエネルギーを保つために、大きなクリスタルが置いてありますが、あまり元気がないようです。

さっそくフェニックス号を呼んで、この場所のクリスタルをホーリー・クリスタルと交換します。

その時、4大エレメントのマスターが、この大きなセンタークリスタルをサポートする4つのエレメント・クリスタルがあるので、それも交換してほしいとやってきました。

私は、彼らの要望に応じて、フェニックス号に、4つのエレメント・クリスタルも交換してくれるようお願いしました。

フェニックス号から、大きなクリスタルに続いて、一回り小さなエレメント・クリスタルが4個、次々とおろされ交換されていきます。ケンタウルス達や騎士団達がクリスタルを交換するために、一生懸命働いています。

またレムリアのシステムを担当するマスターからも、人々の意識を高めるための機械を最新のものにしてほしいと要望がありました。

たので、ベラトリックスやコロボックル族などが呼び出され修理を始めています。
シャンバラやムーでもそうでしたが、これらの機械システムは、最初に作られた時のままですので、かなり旧式になっているようです。

PART3 レムリアの次元の調整

私達は、レムリアの神殿のクリスタルと4つのエレメント・クリスタルの調整が終了したところで、神殿の上の次元の調整に入りました。

レムリアのマスター達と共に、クリスタルの周りに輪を描いて座り祈ります。

するとセンタークリスタルと4大エレメントのクリスタルの光が一つに集まり、大きな光の空間ができあがります。

私達は臆する事なくその中に入っていました。

そこはとても大きくて真っ白な光に取り囲まれたような世界です。

マスターの1人が、この世界の事について説明してくれます。

「ここは、地球のいくつもの叡智にみちた世界をつなぐ場所です。

地球には、いくつもの素晴らしい叡智を持った人々が存在し、独自の文明を形成しています。

シャンバラやアガルタ、ムーやアンドロメダ文明の人達もそうです。

私達は、時折ここに集まり、地球の今後の事について話し合いを行います。

私達は、この地球と人類を深く愛し、地球のためになる事をしたいと考えているのです。
この場所は、地球にあるいくつもの次元を結

び付け、交流を行うための場所なのです。」

私達は、この美しい光景をずっと見つめています。

そして、彼の話が終わると、私はこの次元を支えている巨大で神聖なクリスタルに、創造主の光を分かち合うためにオリハルコンのひと欠片を入れます。

オリハルコンとは、古代文明の中では伝説的な金属といわれ、様々な神話的な物語が語られていますが、基本的にはこの大宇宙の創造者であるブラフマンの意志を伝えるとてもパワフルな光です。

それはとても大きなエネルギーを持ち、星々や銀河、星団を動かす原動力ともなります。

私は、ある星で、このオリハルコンが天の川銀河を動かす原動力として動いている姿を見ました。

そして、その星のマスターから、このオリハルコンこそが、宇宙の創造主であるブラフマンの意志を継ぐ光である事を教えられたのです。

その後私達は、ブラフマンのもとに上がり、オリハルコンの事について学ばせていただきました。

そして、私のスピリットの中にも大きなオリハルコンの玉を入れてもらい、私自身が自由にオリハルコンを使う事ができるようになってくれました。

それが、私自身が新たなブラフマンとして活動する始まりになるとは、思いもよらなかったのですが・・・

私が、この次元のクリスタルに、オリハルコンを入れると、クリスタルからとても美しい

黄金色の光があふれ出しました。

そしてレムリアだけでなく、シャンバラやアトランティス、アンドロメダの各文明の高次の世界へと、すごい勢いで流れ込んでいきます。

ユニバーサル・パレスも、すぐにこのクリスタルの上空にきて、多次元宇宙のマスター達の光を送っていきます。

この光が、多くのスピリチュアル次元に流れていく事で、レムリアの復活が告げられていくようです。

しばらくすると各次元から、偉大なマスター達が続々とこの場所に集まってきます。

シャンバラのマスター、ムーのマスター、アトランティスのマスター、アンドロメダのマスター、皆さんが嬉しそうに顔を見合わせています。

今までは、ここで出会ったとしても、自分達の次元がまだ活性化しておらず、大きな働きができなかったようですが、今は、以前の状態とは全く異なります。

それぞれの世界が救われ、再統合をはたし、新たな活動を行うにふさわしいパワーと能力が取り戻されました。

彼等は、これから、地球と人類に対してとても大切な活動を行ってくれる事でしょう。

私は、彼らを前にして話します。

「皆さんがここに集まってくれた事に深く感謝します。

皆さんのそれぞれの世界が、再建され統合された事により、この地球の新しい進化がとても速くなります。

皆さんの素晴らしい愛と叡智が、人類を必ず良い方向に導いていく事と信じています。

さて今日は、レムリアの世界が再建され、統合に向けて大きな1歩を踏み出す日です。そのために、皆さんのお力添えをお願いいたします。」

マスター達は、私の言葉を聞くと、歓声を上げ、私の気持ちに伝えてくれます。

PART4 レムリアの悲しみの世界

私達は、レムリアの高次の世界から、レムリアの崩壊のまま残る悲しみの大地へと入っていきます。

見渡したところ、前回のアトランティスと同じような状況ですので、同じような方法がとれるのではないかと思います。

ただ、アトランティスと比べて、レムリアは海の中に大陸が沈んでいるのではなく、虚無の空間の中に、散在しているように見えます。

アトランティスの復興に力を貸してくれたメンバー達が、次々と現れ、私の指示を待っています。

私はまずドラゴン達にこの空間を光で浄化するようにお願いします。

暗い虚無の世界に光とエネルギーを満たし、他のマスター達が活躍できるようにしてあげる必要があります。

多くのドラゴン達が、レムリアの暗い死の世界に入り、光をともしていきます。

レムリアの悲惨な姿が次々と浮かび上がり、目を覆いたくなるような光景が広がります。

鳳凰族やワシ族達がグループごとに分かれ、網を持ってまだ生命が残る魂達を救いに行

きます。

そして大空を埋め尽くすほどの天使達も集まってきました。

天使達は、縦横無人に飛び回ると、苦しみと悲しみの中で息絶えた魂達を、その胸に抱いて飛んでいきます。

その時、この次元の上空に大きな光が輝きます。

その光の中心にいるのは、死と再生を司る女神イシスです。

女神イシスの後ろに大きな神殿が2つ現れます。

ひとつは生ある者のための「癒しの神殿」
もう一つは生無き者のための「弔いの神殿」

天使族は、命果てた者達の魂を抱いて「弔いの神殿」にどんどん入っていきます。

鳥族達は、生き残っている魂を、癒しの神殿へと運び込み、待っていた女神やフェアリー達が、魂達の手当てを行っています。

ユニバーサル・パレスが、この次元の上空で、ひときわ大きく輝きます。

すると一緒に来ている「宇宙の光」のメンバー達の心の中に、レムリア文明が大津波や地震によって崩壊した時のイメージが現れました。

メンバー達の泣き声が、聞こえてきます。
きっとその時の過去の事を思いだし、失われた家族や友人達の魂と再会しているのかもしれない。

ユニバーサル・パレスの光が流れ、輝き続けます。

しばらく、瞑想の時間をとり、自分自身にとって大切な過去の事を思いだし、その過去を癒す事に専念しているようです。

静かな時間が、どんどん流れていきます。

私は、この次元の中心にある神聖なクリスタルの元に案内してもらいました。

ここのクリスタルは、神殿ごと粉々に破壊されています。

そのために、この次元を支える力が失われ、次元の空間が歪み散在しているのです。

私は、フェニックス号にこのクリスタルの交換をお願いしました。

騎士団には、このクリスタルの周りに光の神殿を作ってもらいます。

クリスタルの交換が終わると、私はクリスタルの中に、輝くオリハルコンを入れます。

ユニバーサル・パレスからも力強い光がどんどん流れてきます。

私達は、レムリアだけでなくシャンバラやムー、オリンポスの神々と共に祈り続けます。

やがて、クリスタルの周りから黄金色の光がほとばしり出て、周りに広がっていきます。

レムリアの歪んだ空間が元に戻りきちんとした形に戻ろうと動き始めています。

天使や鳥族によって助け出された魂達にもその光は及んでいるようです。

イシスが作った、癒しの神殿と弔いの神殿が、中から大きく輝き始めました。

レムリアの魂達が、深く癒され元気になろうとしています。

オリハルコンの光を受けたメンバー達の魂にも、癒しと再生の光が満ち溢れてきます。

メンバー達にも、過去の苦しみと悲しみを乗り越えて、ハートの中に力強いレムリアの愛と叡智が戻ってきているようです。

私は、この次元を緑豊かな次元に戻し、他の

次元と統合するために、ゴールド・ボックスを開きます。

ゴールド・ボックスからは、色鮮やかな光があふれ出し、周りの空間をさらに輝かせていきます。

レムリアのスピリチュアル次元の重くよどんだ空気はもうすでになく、美しい色彩に彩られた光の次元が、レムリアの世界に広がっていきます。

私は、イシスの神殿に様子を見に行きます。弔いの神殿の方は、天使達の活躍のお蔭で、多くの魂が光と変わり、それぞれの世界へ運ばれていきました。

癒しの神殿では、とても多くの魂達はその命を助けられ、癒しの光を浴び続けています。

私達の親友である名医アスクレピオスも手伝いに来てくれていたようです。

アスクレピオスは、私のもとに近寄ります。

「TAKESHIさん、素晴らしい仕事をしてくれましたね。

これだけ長い期間放置され、荒れ果てていた世界で、生命ある者達を救い出せるというのは奇跡です。

彼等は、よっぽど強い信念をもって生きてきたのだと思います。

きっと素晴らしい能力と叡智を持って、この世界を必死で守護してきたのではないでしょうか。」

私は、イシスやアスクレピオスをはじめ、魂の救出にあたってくれた天使、鳥族、ドラゴン族、騎士団に深く感謝の言葉を述べます。

「皆さん本当にありがとうございます。

このレムリアの世界は、地球のみならず宇宙にとっても、とても大切な世界です。

皆様のご協力に深く感謝します。

それでは、これからこの世界とレムリアの高次の世界を一つに統合していきますのでよろしくお願いします。」

PART5 レムリアの新しいマスターとネオ・レムリアン

レムリアのマスター達と共に、ここに集まってくれた全員で、先ほどの神殿に戻り、ホーリー・クリスタルを中心に上の次元とこの次元を一つにつなげていきます。

中心となるホーリー・クリスタルだけでなく、4つのエレメント・クリスタルも、この次元につなぐために配置します。

マスター達の祈りが、神聖な唱歌の様にレムリア中に響きます。

光が、高次の世界から降りてきて、この世界と一つになっていきます。

私達は、レムリアの新しい次元を再創造するために、新しいレムリアのマスターと人種を生み出す事にしました。

私は、神々に呼びかけ、この次元のマスターと新人種を創造する事を助けてくれる神々を呼び出しました。

「宇宙の大地」のマスターが最初に現れてきます。

続いて大天使ガブリエル、大天使ラファエル、そしてゴッデス・ダナとゴッデス・レイです。

「宇宙の大地」のマスターが最初に現れたのは、このレムリアの自然と共存して、高次のテクノロジーに頼らない人種を作り出し、文

明のバランスをとるためではないかと思
います。

またガブリエルとラファエルが加わる事
で、このレムリアは、再び天使達が見守
る素晴らしい世界へと変わっていく予感
がします。

私は、彼らと円を作り祈り始めます。
ユニバーサル・パレスから、生命創造
のための特殊な光が降ろされ私達を包
み込みます。

「偉大なる神々よ、このレムリアのスピ
リチュアル次元を治める新たなマスター
を生みだしてください。

そして、このレムリアに生きる人々を
作り出し、レムリアの世界を光豊かな
ものにしてください。

レムリアのスピリチュアルな世界が大
きく広がり、再びレムリアの神聖さと
愛が満ち溢れるようにしてください。」

私が祈り終わると、光の中にいくつも
の稲光のようなスパークが起こります。

そしてやがて、一組のマスターが光の
中から歩み出ます。

天使の羽を持った美しいマスター達
です。続いて、私達人間の様にみえる
存在達が、数名歩み出ます。

まだ生まれたばかりで、様子が分か
らないようですが、とてもかわいい子
供のような存在です。

彼等はこれから大きくなり、そして
数もどんどん増えていく事でしょう。

私は彼らをサポートするために、フェア
リー・エンジェル達を20人ほど呼び
寄せ、彼らと共に新たな世界を作っ
ていくようお願いしました。

フェアリー・エンジェルと共に、か
わいいホ

ビット達も出てきてくれました。

きっと素敵なお家を作ったり、フェアリー達と一緒に、果物がたくさん実る樹木などを増やしてくれる事でしょう。

PART6 ヒマラヤの奥地に隠されたレムリアの物理次元

私達は、レムリアの残された物理次元へと向かう事にしました。

その入口は、ヒマラヤの寺院の奥にあるといわれています。

おそらく、地球の守護者の1人であるドライ・ラマのグループがここを守っているのではないかと思われれます。

私達が寺院に着くと僧侶のような人が迎えにきました。

そして、寺院の奥に案内し、隠された扉を開き、私達をさらに奥へ導きます。

ヒマラヤの山の中に、レムリアの物理次元とつながる通路が続いているのも不思議な感じでした。

迷路のような道を歩き、いくつかの扉を抜けると、突然一つの世界が目の前にあらわれます。

私達が来る事を知っていたかのように、3人のマスターが、私達の前に現れ、私達を神殿へと案内してくれます。

このマスター達は、レムリアの残された物理次元を管理している守護者のようです。

「レムリアの物理次元は、崩壊したショックで時間が止まってしまいました。

それ以来、生命も育たず氷の世界に閉ざされ

たような重苦しい雰囲気がかかっています。
私達は、いつかレムリアが復活する事を夢見て、この場所を守り続けてきました。
レムリアの素晴らしい叡智が、再びこの世界を舞台にして繰り広げられる事を待ち望んでいるのです。」

私達は彼らと共に、ヒマラヤの奥地に隠された物理次元のレムリアの神殿に行きました。中央にあるクリスタルは、黒く汚れ輝きがありません。

私達はフェニックス号にお願いしてクリスタルを交換してもらいます。

またこの物理次元を動かしていく為のシステムも、かなり古くなっているようですので、ベラトリックス達にお願いして修理してもらいます。

私達はこの物理次元とスピリチュアル次元をつなぐために、この物理次元の上の方に向かいます。

上に行くと、この次元とほかの次元をつなぐ通路にひびが入り壊れているようです。

まるで天井にある天窗が崩れ落ちているようにも見えますので、ワシ族のビジョン達が飛び上がり修理に入ります。

私達は再び、クリスタルのもとに戻りました。クリスタルの交換も、この次元の時と空間に関わるシステムの修理も終わったようです。私は、ブラフマンの一部であり時と空間を司るマスターメビウスにお願いして、この次元の時と空間を再び動かしてもらいます。

私は、クリスタルにオリハルコンを入れ、ユニバーサル・パレスは上空から光を注ぎます。クリスタルが、ゆっくり輝き始め、黄金色の光を放ち始めます。

光りが広がっていくと周りのシステムも静かに稼働を始めます。

時が止まり、凍り付いていたようなレムリアの物理世界に春の暖かさが戻ってきたようです。

レムリアの次元が生命力を得て、輝き、動き始めます。

小さな植物達が芽吹き育っていきます。

冬眠していた動物達も眠りから覚め、周りを見渡しています。

私は、ゴールド・ボックスを開き、このレムリアの世界を緑あふれる美しい世界へと変えていきます。

川が流れだし、風がそよぎ、美しい花が咲き始めます。

動物達も、家族を連れて、美しい野原に走り出してきます。

私達は、もう一つ気になる場所、クリスタル・ドームへと入ります。

ここはとても悲惨な状況のままです。

クリスタルも崩壊し、女神も倒れたまま、すでに意識がありません。

フェニックス号に連絡をして、クリスタルを交換してもらうとともに、この女神をフェニックス号の医療室に収容してもらいます。

私は、鳳凰族にお願いして、クリスタル・ドームの女神を新しく呼び寄せてもらいます。するとすぐに新しい女神がやってきました。美しい緑色から虹色に輝く羽を持つ女神です。

「私は、鳳凰族の者です。このレムリアの世界を支えるためにここにやってきました。名前は、レムリーナと呼んでください。

このレムリアの復活のために、皆さんと力を合わせて働きたいと思います。」

私は、レムリーナに、このレムリアの物理次元を守ってもらう事を深くお願いしました。そして、クリスタル・ドームのクリスタルにオリハルコンを入れ、クリスタルを輝かせます。

さらに私は、レムリアのスピリチュアル次元との統合を行うために、ユニバーサル・パレスを通して光を送ってもらいます。

物理次元と物理次元の原動力となるクリスタル・ドームの光が一つになり大きく輝きます。

これで、レムリアの主要な3つの次元が一つになり、地球との統合を持つ事となります。

第6章 レムリアの魔法の世界と癒しの世界

PART1 レムリアの魔法使いの世界

私達の星のツアーでは、レムリアの物理次元とスピリチュアル次元の統合を行いました。が、レムリアにはそれ以外の世界がいくつかある事を、後程教えられました。

今回はそれらの世界についてお話ししましょう。

私達が新たに連れてこられた世界は、人々がスピリチュアルな能力を高めるために、自らのエネルギーを充てんするサイキックな場所でした。

三角帽子をかぶった魔法使いのマスターは、私達に語ります。

「ここは、魔法使いや宇宙の真理を学ぶ者達にとっては、そのパワーの源になるような世界でした。

レムリアの時代を生きた魔法使い達や真理の探究者達は、この世界に来て多くの事を学び、又自分の能力を高めていきました。

彼等はどこにいても、ここにあった神聖なクリスタルとつながり、その力を受け取る事ができました。

彼らの力は、常にこの神聖なる場所にあるクリスタルによって保持されていたのです。

しかし、レムリアの人々も、アトランティスとの争いの中で、自分達の本質を少しずつ見失っていきました。

愛と癒しの気持ちを失い、その叡智も顧みら

れる事も少なくなりました。

レムリアの中でも、その流れの中に飲み込まれ、誤った方向に魔法を使う者達も現れてきました。

魔法使いや真理の探究者達は、そのような傾向に歯止めをかけ、レムリアの神聖なる愛と叡智に再び戻る事を願って活動してきましたが、その思いもかなわず、レムリアは崩壊してしまいました。

彼等は、自分達の力不足を憂い、間違えて使用された魔法の力に対して、とても大きな苦しみと悲しみを味わう事になったのです。

レムリアは崩壊し、この魔法の源となったクリスタルも破壊されてしまいました。

多くの魔法使いは、魔法の源泉となるクリスタルを失う事で、自分達の魔法の力も失いました。

そして、魔法を使う事や真理を探究する事を恐れ避けるようになりました。

長い年月の中で、魔法使いだった者達もその能力を失い、ただ魔法に対する恐怖と不信感だけが残りました。

真理を探究していた者達、神へ仕えていた神官達も同じように、その叡智と能力を失い、恐れと不信感の中で、自分を責めさいなんできました。」

私は、フェニックス号を呼び、魔法の源となる特殊なホーリー・クリスタルをこの次元に降ろしてもらおう事にしました。

私達の仲間の魔法使い達がたくさん出てきて、運ばれてきたクリスタルに特別な祈りを捧げています。

この場所を守っていた魔法使いが、その様子を見て大変喜んでいます。

彼の中に新たな希望が生まれてきたようで

す。

「私達は、この魔法の世界のクリスタルが、再び生まれ変わる事を心から願っていました。

この魔法の世界のクリスタルは、レムリアの魔法使いにとっては生命の源です。

彼らが、再び、自分自身が偉大なる魔法使いや神官、真理の探究者である事に目覚め、レムリアと地球のために、その力を使ってくれる事を、私は心から願っているのです。

そしてこの魔法使いのクリスタルの大切な点はもう一つあります。

魔法使い達が、ネガティブな感情に負けて、愛と叡智に基づかない魔法を使う事を抑制します。

つまり、白の魔法を皆さんが使うように、魔法使い達を守護する事です。

魔法は悪用される事によって、多くの人々や地球の生命を傷つけます。

それが、レムリアの崩壊の一つの原因ともなったのです。

ここにあったクリスタルは、その事に耐えかねて崩壊してしまいました。

私達は、この新たなクリスタルのもとで、レムリアの魔法使い達を癒し、本来の能力に目覚めさせるように努力します。」

私は、クリスタルの中にオリハルコンを入れます。

するとクリスタルの中から黄金色の光があふれ出し周りに広がります。

この魔法の世界は、美しい緑の森に変わります。

美しい小川が流れ、花々が咲き乱れる野原も生まれてきました。

私は魔法使いや騎士団にお願いして、神聖なる魔法使いの神殿、神官の神殿、探究者の神殿とそれぞれの学校を作ってもらいます。これから、魔法使い達や神官達の魂を持っている人々がたくさんやってくる事でしょう。

PART2 レムリアの癒しの森

レムリアの世界でもう一つ別の世界に連れてきてもらいました。

私達が、着いた場所は、かつてはフェアリーや癒しを行う人々がたくさんいた場所です。人々はここで、自分自身を癒し、楽しく過ごしていました。

この場所は、人々を癒し、楽しい時間を過ごさせるための特別の場所だったようです。また遊びながらスピリチュアルの成長を促すための働きも持っている場所でした。しかし今はそのような面影もなくただ荒れ果てた空間が広がるばかりです。

私達は、この世界を守護するマスターを呼び出します。

マスターもとても元気がなく疲れ切っている様子でしたが、私達を見るととてもうれしそうにしています。

「私達は、あなたが来る事をとても待ち望んでいました。

レムリアの「神聖なる癒しの神殿」を復活させる事はとても大切な事です。

ここから、多くの人々に、人生を楽しく生きるためのエネルギーと癒しの光を送っていたのです。

レムリアの人達が、常に愛に満ち、やさしい心で生きるように私達は活動してきました。しかし、レムリアが崩壊するとともに、この場所のクリスタルもはじけ飛び崩壊してしまいました。

私達はこの場所が再生したら、再び愛と癒しに満ちた光を送る事ができるようにしたいと思います。」

私は、フェニックス号にお願いして、この世界のクリスタルを交換してもらいます。

そして、このクリスタルを囲むように大きな神殿を作る事にしました。

魔法使いと騎士団達が、喜びながら楽しんで神殿を作っています。

神殿という厳かな感じではなく遊び心がたくさん満ちあふれた宮殿のような建物が出来上がりました。

私は、この次元に導いてくれたメンバーの名前をとって「アヤソフィア」という名前を宮殿に付けました。

私はクリスタルに、オリハルコンを入れます。すると宮殿から大きな光が満ち溢れ、周りにどんどん広がり、美しい野原が生れてきます。私はここに、癒しと遊びの世界を作るために、フェアリー達や新しい人種を作る必要がある事を感じました。

フェアリーの女王に頼んで、たくさんのフェアリーとホビット達を作りだします。

次は、天使達です。

遊び心に満ちたかわいい天使達もたくさん生まれてきました。

この場所を統治し守る女神とマスターも生まれてきます。

女神はとても美しいのですが、マスターはまるでトランプのキングのような面白い姿をしています。

まるで「不思議の国のアリス」のようですね。

そして私は、偉大なるドラゴンに、この次元を守り豊かにするために、海や山を作ってもらう事をお願いしました。

この世界がもっと豊かになり楽しい波動で満ちあふれてきます。

私は、最後に、このアヤソフィアの世界を支える新しい人種を生みだします。

女神とマスターのもとから、新たな人種が生まれてきます。

アヤソフィアのレムリアン達です。

きっとここを訪れる人々の心を癒し楽しませてくれる事でしょう。

第7章 アポロン神殿の神々

PART1 叡智ある存在達を統治するオリンポスの神々

私達が星のツアーで、アトランティスに続いてレムリアを復活させた翌日のアチューメントの時、私はいつもと異なる雰囲気の大神ゼウスに招かれて、彼らの神殿であるアポロン神殿へと招かれました。

ここは、どこの世界にある神殿ですかと尋ねたところ、どうやら局部銀河の叡智ある存在達を見守る神殿のようでした。

私達がよく地球で目にするゼウスやポセイドン達は、主に太陽系もしくは天の川銀河の中にある星々が担当のようですが、彼らは、そのもう一つ上の局部銀河の次元に存在しているようです。

つまり、太陽系のゼウス達は、彼らの一部であるといえます。

局部銀河とは、地球が属する天の川銀河の近くにある銀河達を含めた場所です。

局部銀河最大のアンドロメダ銀河をはじめ、天の川銀河のすぐ横にあるマゼラン星雲、かに座銀河などのいくつかの銀河によってできています。

局部銀河は、ユニバース（単一銀河）の一部ですが、この局部銀河がひとつの区切りとなって、この区域を担当する創造主や大天使達、マスター達が存在しています。

この局部銀河を抜けると、その領域はユニバース（宇宙）全体へと広がります。

ユニバースの最高次元には、私達のユニバー

サル・パレスがあり、このユニバースを統治するマスターやゴッデス達がそろっています。

私達は、ゼウス達の招きに応じて、宇宙の中に浮かぶ神殿へと入りました。

とても美しい神殿で中庭には色とりどりの花々がたくさん咲いています。

神殿のなかには、ゼウスをはじめアポロンやハデスなどのオリンポスの神々達もそろっています。

「私達は、皆さんの言葉でいうとオリンポスの神々といわれる存在です。

皆さんがギリシア神話などでご存知のように、私達は彼らの姿を借りて皆さんの前に現れています。

私達の役目は、この局部銀河の中にある星々に叡智ある存在達を生み育てる事です。

地球においても、主にレムリアやアトランティスの文明などに深く関わってきました。

様々な星の叡智ある存在やマスター達に協力してもらい、特定の星々に、叡智を持った存在達を生み出し育てていきます。

そうする事で、その星を豊かで多彩なものとする事が出来るのです。」

私は彼らに尋ねました。

「あなた方の役目は理解できますし、とても大切な事ですが、実際にはレムリアもアトランティスも滅んでしまいました。

それは、どうしてですか？」

ゼウスは、まさに痛いところを突かれた！というような顔をします。

「それは、私達にとっても、とても大きな苦しみとなっています。

多くのマスター達に協力してもらい作り上げた種族であり文明であったのですが、彼らの欲望や支配欲を抑える事が出来ませんでした。

叡智ある存在達の成長を早める為に、競争心を掻き立てる遺伝子を組み込んだのが間違いだったかもしれません。

私達は、彼らが地球の他の種族とも協力し合っただけの楽園を築く事を期待していたのです。

しかし、一部の人間は支配欲と科学的な技術を身につけてしまいました。

そして、神に祈り、神の教えを守る事を馬鹿らしく思うようになってしまったのです。

そのために、地球上でいくつもの争いが起こり、文明同士の衝突が起こってしまいました。

私達は、彼らが再び神の教えを守るように、幾度も使いの者を地上に送り戒めましたが、彼らの暴走を止める事はできませんでした。」

私はゼウスを慰めるように言います。

「だから、まだ素直な気持ちを持っている人々に啓示を与えて、アトランティスやレムリアを海の底に沈めたのですね。

あなた方の苦悩も理解できますし、私達も今の地球を見ると同じような事が起こるのではないかと思います。それもまた仕方がない事だと思っています。」

「TAKESHI さん、私達は、あなた方が再び、レムリアやアトランティスに入り、苦しみや悲しみに沈む魂達を弔い文明の叡智を保存していたマスター達を助けてくださった事に深く感謝しています。

私達は、再びこの地球で、レムリアやアトランティスの叡智を取戻し、新たな文明を出発させていきたいと思えます。

そのために、一度切れてしまったレムリアやアトランティスとの光を再度つなげ、私達が再び、これらの文明を指導できるようにしてもらいたいのです。

私達は、2度と過ちを繰り返さないようにしますのでお願いします。」

私は、彼らの真摯な願いをかなえてあげる事にしましたが、その前に気になる事があります。

「ゼウスよ、あなた達はこの地球をどのような世界にしていきたいのですか？」

「私達は地球をユートピアの様な楽園に成長させていきたいのです。」

「ならばゼウスよ、あなたはアシュタール族のユートピアを知っていますか。」

アシュタール族とは、宇宙のえりすぐりの星々から選ばれたメンバーで構成されたグループで、ユニバースのみならず多次元宇宙のユートピアを目指して、星に住む人々に厳しい指導を行っています。

ゼウスは、急に戸惑ったような顔をして

「アシュタールの人達は厳しすぎるので、私達と合わないのです。」

私は、恐らくそのような事ではないかと思いゼウス達に言います。

「ゼウスをはじめとするアポロン神殿の神々よ、

あなた方の中にある苦しみや悲しみは、あなた方自らが癒さなければ再び繰り返します。レムリアやアトランティスが滅びた事に対する苦しみと悲しみがあなた方の中に残っていますが、それと同時に、又間違いが起きてもしょうがないという、自分達に対する甘

えた気持ちも残っています。
それらの気持ちを取り除かなければ、新しく
生まれた文明も、また同じ事を繰り返して滅
んでしまいますよ。
私達と一緒にアシュタールが作ろうとして
いるユートピアを見に行きましょう。
私がお案内いたしますので、フェニックス号
に乗ってください。」

ゼウス達は驚いた様子で困っています。
反対に、アフロディティ達はにこにこ笑って、
「さあ、行きましょうよ。」と神々の腕を引
っ張っています。

私達は、フェニックス号に空間移動します。
ゼウス達は、初めて見る最新型の大型宇宙船
に驚いてキョロキョロ周りを見渡していま
す。
私は、フェニックス号の船長に、「アシュタ
ールの元へ」と声をかけます。
船長も笑って「了解！」と応え、船はすぐに
光の通路を高速で進みます。

PART2 アシュタールの世界を訪問する オリンポスの神々

ゼウスやアポロン達もようやく落ち着いて
くつろぎ始めた頃、フェニックス号はアシュ
タールの世界へとつきました。
もうすでにエレナさんとミサングさんが私
達を迎えるために待っています。
私は、船を降りると、エレナさんとミサング
さんに声をかけます。

「今日は素晴らしいお客様を連れてきまし
たのでよろしくお願いします。」

エレナさんも笑って答えます。

「そうね、鍛えがいがありそうなお客様ね。」
その会話を聞いていたゼウス達の顔がこわばります。

それを見て私達も笑いながら、ゼウス達を船の外に案内します。

「ゼウスよ、エレナさんは、私達の大切な友人でありガイドです。

本来はとても聡明で優しい女性なんですよ。」

エレナさんもミサंगाさんもゼウス達を見て微笑みます。

「私はアシュタールのメンバーの1人であるエレナです。

皆さんがこのアシュタールの世界に来てくださった事をとても感謝しています。

私達は、多くの星々の人達が、自分達の理想の世界を実現していく事をサポートするために、人々の魂を目覚めさせ、あるいは試練を与えてその人の魂を成長させます。

もし皆さんが、私達の事をあまりお好きではないとすれば、きっとどこかで、私達の試練をお受けになられた事があるのかもしれないね。

しかし、この TAKESHI さん達の様に、その試練をかいくぐり急速に成長する魂もある事は事実です。

皆さんが本当の成長を望み、自分達の世界をユートピアにしたいという強い熱意があれば、私どもが与える試練なんて大した問題ではありません。」

エレナさんのもっともな話にゼウス達も恥ずかしそうにしています。

「それから TAKESHI さん、皆さんがシャンバラやレムリア、そしてアトランティスに入り、多くの魂を救い出し、叡智ある存在達

と共に、文明を立て直してくださった事に深く感謝しています。

この世界に新しく輝く世界が生れると、地球も含めた皆さんの宇宙もどんどん新しく生まれ変わっていきます。

ゼウス達が、新しい文明を作り出す前に、高次元のマスター達の光をしっかりと受けとり、さらに高い叡智を身につける事で、彼らも過去の失敗を繰り返す事なく、今まで以上に素晴らしい世界を作り上げる事ができるようになると思います。」

エレナさんの核心をついた言葉にゼウス達は黙り込んでいます。

アディティーヤなどの女神達は、エレナさんの言葉に大喜びです。

エレナさんの周りに集まり、はしゃいでいます。

「エレナさん、私達をさらに高次の世界のマスター達のもとに導いてくださいね。」と一緒に歩き出します。

私達は、アシュタールの神聖なる場所にやってきました。

目の前に大きなホーリー・クリスタルがあります。

クリスタルを守護しているマスターも、ゼウス達を見て歓迎しています。

「さあ、皆さんが目指しているユートピア世界を実現するために、このホーリー・クリスタルと皆さんの神殿のクリスタルの光をつなぎましょう。

このクリスタルは、多くの人々の祈りの力によって、いつでも美しく輝いています。」

私はこのクリスタルにも創造主の力を表すオリハルコンを入れさしてもらいました。

クリスタルは、黄金色に輝くと今まで以上に光を広げていきます。

いく筋もの強力な光が、宇宙の各地に走っていきます。

ゼウス達も、自分達のハートを通して、アポロンの神殿とこのクリスタルの光をつなげていきます。

私達は、アシュタールとアポロン神殿のメンバー全員で、この宇宙に愛と叡智の光が広がり、素晴らしいユートピアが実現するように祈ります。

このクリスタルがある丘から麓を見下ろすと、優雅で美しい街並みが、輝いて見えます。きっと新しいレムリアもアトランティスも、今までにない美しい町となる事でしょう。

PART3 運命の神々の世界、切り株から新たな芽生えが始まる

私達はアシュタールのメンバーと別れると、ゴッデス・オリジンに導かれて「運命の神々」のもとに導いてもらう事にしました。

この場所は、大犬座のシリウス星のスピリチュアル次元であるシリウス C 星のさらに上にある次元です。

「運命の神々」とは、この宇宙に生れてくる生命達の未来や運命を創造するための神々です。

太陽のように光輝く神殿のもとに私達はたどり着くと、神殿の扉を開けて中に入ります。そこには数えきれないほどの生命の樹が立ち並んでいます。

その一本一本が、多くの生命達の未来を紡いでいるのです。

ゼウス達が、「また、大変なところに来てしまった、」という顔をしながら、周りを見渡しています。

その様子を笑いながら見ていた「運命の神々」が、ゼウス達を集めて話をします。

「皆さんが見ている生命の樹の一本一本が星や種族の未来を表しています。

とてもたくさんの枝に分かれ、数えきれないほどの葉っぱがついています。

その葉っぱの1枚1枚が、1人1人の生命です。

その元となる幹がしっかりとして健全であれば、全ての葉も立派に育ち、美しい花を咲かせます。

しかし、その木の根元が腐ったり病気でやられたりすると、生命の木は葉を茂らせる事もできませんし、花をつける事もできません。ゼウス達よ、あなた方は、この生命の樹を見守り、枝葉が丈夫に育つために病気の予防をしなくてはなりません。

反対に、あなた方が病んでいれば、あなた方が見守る生命の樹も病気になってしまいます。

あなた方が、ここに来たという事は、あなた方自身の病を癒し、新たな未来を創造するためではありませんか。

あなた方の気持ちも変われば、あなた方の未来も変わりますし、あなた方が育てる人々や文明の未来も大きく変わってきます。」

「運命の神々」がいう事は、いつもすごい迫力がああります。

ゼウス達だけでなく女神達も真剣なまなざしで「運命の神々」を見つめています。

「何も恐れる必要はありません。

私達と共に、自分達の意識を素晴らしいものに変え、成長させる事により、あなた方が担当する局部銀河をさらに素晴らしいものにしてください。」

私達は、「運命の神々」の神殿に入りました。そこには、大きなクリスタルが輝いています。この場所のクリスタルは大きなクリスタルの周りにクラスターの様に小さいクリスタルが無数に生えています。

私はその中を抜け、メインのクリスタルにオリハルコンを入れます。

そしてこの宇宙に素晴らしい叡智と愛を満たし、多くの生命達の運命がさらに良くなっていくように祈ります。

祈りが終わると、「運命の神々」が近くの地面を指さします。

そこには、切り倒された生命の樹の切り株から、新たな芽が出ています。

「これをごらん下さい、この切り株は、地球上に栄えていたいくつもの文明が滅んでしまったために、生命の樹自体が枯れて倒れてしまいました。

しかし、この切り株にあたらしい芽が生えてきました。

皆さんが、アトランティスやレムリアを救ったおかげで、新たな文明の芽生えが起こったのです。

一度滅んだ者達の運命が変わったのです。これからこの樹が大きく育ち、新たな生命の樹として、たくさんの葉を茂らせ美しい花を咲かせる事でしょう。」

その話を聞いた女神達はうれしさのあまり歓声を上げます。

ゼウスやポセイドン達は、歯を食いしばり、涙をこらえている様子です。

私達は、そんなゼウス達を見つめています。

PART4 アポロンの神々、鳳凰族のもとへ

次に私達が向かったのは、ゼウス達の心を明るく楽しくさせるために、偉大なる遊びのマスター、鳳凰族の神殿です。

私達は、ゼウス達が鳳凰族のマスター達と出会う事により、ゼウス達に遊び心や柔軟性のある生き方をしてもらいたいと願っています。

鳳凰族とは、この宇宙の創造主ブラフマンが生みだした「原初の種族」と私が呼んでいるグループの一つです。

それは、ブラフマンが、星々を生みだしたり叡智ある生命達を育てていく為に必要な事を行うために存在する種族です。

特に鳳凰族は、遊び心が豊かで、この宇宙を動かすための工学システムを作り上げています。

私達の宇宙船であるフェニックス号もこの鳳凰族によって建設されています。

また惑星や恒星の様にみえる星々の中には、彼らによって作り出された、宇宙を運営するために必要な様々なシステムを持っている人工的な星もたくさんあります。

しかし鳳凰族は、そのような事柄を全て遊び感覚で行っています。

常に美しい羽根を広げ、この宇宙を自由に飛

び回り楽しんでいきます。

私達が、鳳凰の世界に入るとすぐに、鳳凰のマスターがやってきます。

「皆さん良くいらっしゃいました。

皆さんが来てくださる事を、私達はずっと待っていましたよ。

ここではどうかリラックスして楽しんでください。

皆さんの心の苦しみや悲しみを癒し、もっと自由にふるまってください。」

ゼウス達は、鳳凰のマスターの優しい言葉に、今までの緊張がほぐれたのか、ゆったりとしています。

女神達は、鳳凰族の持つ美しい羽根に心を奪われて、鳳凰族のマスターの周りで羽に触ったりして楽しんでいきます。

女神の一人が、この羽をととても気に入ったらしく、自分にも羽をくださいと、おねだりしています。

「オリンポスの女神達よ、あなたの心の中にはとても素晴らしい光があります。

それは、あなたを自由の世界へと羽ばたかせ、あなたの世界を喜びと楽しさであふれさせていきます。

それが、あなたの羽となるのです。」

女神の背中から美しい羽がスーッと伸びていきます。

羽を羽ばたかせると、女神は空中に浮かび上がり、空をたのしく舞い踊ります。

それを見ていた女神達にも次々と羽が生え、大歓声が沸き起こります。

皆さん、大空で追いかけてっこを始めました。

私達は、鳳凰族の神殿へと入ります。

神殿の中央に高くそびえたつクリスタルの

周りに集まり、私達はこの宇宙に、もっと豊かな愛と叡智と喜びがもたらされるように祈り始めました。

私が、クリスタルの中にオリハルコンを入れると、その光がクリスタルからあふれ出し、オリンポスの神々を包んでいきます。

すると神々は、喜びと愛に満ちあふれ、彼らの背中からも立派な羽が生れてきました。

彼らの心も、過去の失敗から解放され、新たな叡智と愛を身に着けた素晴らしいものになっていっているようです。

彼らの心に喜びと楽しさがあふれてきたのか、彼らの体もフワフワと空中に舞い上がり、滑るように飛んでいきます。

彼等は、飛び上がる事の楽しさを覚えたのか、まるで子供の様にはしゃぎまわります。

私達も羽を広げ、しばらくの間一緒に楽しんでいきます。

この局部銀河を統治するオリンポスの神々のスピリットの中にとっても大きな変化が訪れたようです。

きっと彼らの一部である地球のオリンポスの神々にも素晴らしい変化が起こり、地球の新たな文明も喜びに満ちあふれたものとなる事でしょう。

ゼウス達は遊び疲れたのか、フェニックス号で帰る時は、すぐに眠りについてしまいました。

第8章 アバロンの伝説と新たな復活

PART1 アバロンのたどってきた道

私達は、シャンバラ、ムー、アトランティス、そしてレムリアと過去の文明の苦しみと悲しみを癒し、新たな次元としてこの地球に統合してきました。

しかし、マスター達は、さらに他の次元もこの地球の次元に統合するように私に伝えてきます。

私が、新たな世界が開かれていく事で、ユニバーサル・パレスの働きや組織も大きく生まれ変わり、新しいスタートが早まってきているようです。

またユニバーサル・パレスも新たなオリハルコンを搭載しその光は、ユニバース中にいきわたっているようです。

私達が、ユニバーサル・パレスに着いた時、今日の仕事は、地球の残されたパラレルワールドであるアバロンを再統合する事でした。アバロンとは、アトランティスやレムリアが崩壊する前に、叡智ある存在達やフェアリー、ホビット、ユニコーン、ペガサス、マーメイド達が逃げ込んだ場所の事です。

おそらく物理次元を持っていた文明の中では、とりわけフェアリー達のような神話的存在と関係が深い場所であると思われます。

アバロンは、現在のフランスやイギリスあたりを中心として栄えたようですが、その文明はアイルランドのケルト文明に引き継がれ

ています。

そのためにケルトの伝承にはフェアリーや自然界の精霊達、魔法使い達が登場する事も多く、いまだにミスティックな力が保持されているようです。

しかし、このアバロンもまたケルトも時代の流れの中で滅び去ってしまいました。

私達は、フェニックス号で時間を越えアバロンにたどり着きました。

すでに緑の植物達もなく岩肌だけが露出する荒れ果てた土地です。

ユニバーサル・パレスにお願いして、この次元を活性化するための光を送ってもらいます。

私達がこの次元のマスターを呼び出すと、とても体が大きいしっかりとしたマスターが現れてきました。

そして私達の仲間であり、アバロンの事についても詳しい魔法使いのマーリンを呼び出します。

マーリンは、さまざまな伝承で登場する魔法使いですが、特にアーサー王との関係が深い魔法使いです。

しかしマーリンはもともとアルクツールス星とも関係が深く、地球の人類の進化のために、この地球にやってきた魔法使いです。

彼は、私達の仲間に加わり、共に星々の再建を行う手伝いをしてきました。

そして宇宙レベルの偉大な魔法使いと共に活動する事により、本来の叡智あふれる偉大な魔法使いへと変わっていきました。

今では、このユニバースを代表する素晴らしい魔法使いです。

マーリンは私達にアバロンの事について教えてください。

「アバロンは、かつてアトランティスで活躍していた叡智ある存在や魔法使い達とユニコーンなどの神話的な存在が、アトランティスの抑圧的な支配から逃れてきた場所です。彼らは、アトランティスに残っていたら、アトランティス人達から遺伝子操作を受けて傷つけられ破滅するかもしれないという危険を持ちました。

それほどまでに、アトランティスの支配者達は、容赦ない弾圧をユニコーンやペガサス、マーメイド達に加え、彼らのシエップシフトの能力やミスティックな力を奪っていたのです。

私達は、危険を察知し、残っているユニコーン達を、アトランティスの秘密の場所で保護していたのですが、その場所も次々と見つかり、仲間達が傷つけられていきました。

そのために、私達は、仲間達を集め、夜の闇にまぎれてアトランティスを脱出して遙かな地を目指しました。

そしてたどり着いたのがアバロンです。

もちろん、アトランティスの支配者達は、私達が脱出した事にすぐに気づき追いかけてきましたが、仲間の魔法使い達が、私達を闇で隠したり、幻影で追っ手を違う方向に招きよせたりして逃げとおす事ができましたが、そのために、多くの魔法使い達も犠牲となりました。

しかしユニコーンやペガサス、マーメイド達はアトランティスの叡智そのものであり、私達の魔法やミスティックなパワーの源です。彼らを守る事が、私達を守る事であり、アト

ランティスの叡智を守る事でもありました。そのために、私達の仲間も喜んでその命を捧げていったのです。」

マーリンの話に、仲間達の多くが涙します。私達の前には、闇の中を魔法使いと共に旅するペガサスやユニコーン、フェアリー達の姿が映ります。

一筋の希望を求めて、彼らは歩み続けているようです。

「私達はやがて、皆さんがアバロンと呼ぶ世界にたどり着きました。

私達は、しばらくの間、闇の中に姿を隠して生活していました。

そして、私達の予測通り、アトランティスは、崩壊しました。

私達は、アトランティスから逃れてきた叡智ある存在達も受け入れ、アトランティスにかわって、この地球のスピリチュアル次元を支えるために、私達を覆っていた闇を取り払い、表の世界に出る事にしました。

私達は、しばらくの間、とても美しく楽しい時代を送りました。

フェアリーやユニコーン、ペガサス達も優雅に暮らし、この地球と共生し合う文明を育てていたのです。

しかし悲劇は突然起こりました。

私達が、アトランティスの崩壊の時に助けてあげた人達の中に、遺伝子操作を行う技術を持った人達が紛れ込んでいたのです。

彼等はしばらくの間静かにしていたのですが、私達の気づかないところで仲間を増やし、このアバロンを支配する事を企んでいたようです。

また同じ過ちが繰り返されます。

彼等は遺伝子操作によってとてもパワフルで狂気に満ちた存在を作り上げ、アバロンで楽しく暮らしていた人々やユニコーン達を支配しようとしてきました。

私達は、彼らの攻撃に逃げ惑いながらも、ユニコーン達を物理次元ではない次元へと運び出しました。

そして、この物理次元との関係を魔法によって絶ちました。

それによって少数のユニコーン達は助ける事ができましたが、アバロンもまたアトランティスと同じような悲劇を生む事となったのです。

このアバロンを支配した科学者達は、その喜びに浸り自分勝手な生活を始めました。

しかし、そこには、アトランティスの叡智はすでになく、世界の統率は大きく崩れ混乱だけが残りました。

私達は次々とアバロンから姿を消して、他の次元へと移り変わっていったのです。

アバロンに残されたのは科学者達の仲間と狂気に満ちた存在達ばかりでした。

支配する相手を失った科学者達はやがて仲間同士で争うようになり、アバロンは深い闇に包まれてしまいました。

もちろん、私達が、長い年月を経て、アバロンの世界を視察に来た時は、もうすでに生きるものもなく荒廃した世界だけが残っていました。」

マーリンは、とても悲しそうな表情をしながら語り続けます。

マーリンの中で、仲間を失った苦しみと悲しみが広がっていく様子が分かります。

「アトランティスの人々に手出しができな

いように、アバロンのスピリチュアルな次元は封印されて守られています。

しかし、このアバロンのスピリチュアルな次元では、多くの魂達が闇の中で苦しんでいます。

アバロンの物理次元も今では封印されており、ケルトのストーンサークルや森の中に隠された秘密の出入り口も今は閉じられています。

この時以来、フェアリーやユニコーン達が存在する次元と人間達が存在する世界は大きな壁で仕切られ、皆さんからはユニコーン達が見えないようになってしまいました。

しかしながら、地球の波動がどんどん変わっていくにしたがって、その壁を通り抜ける事ができる人達が増えてきました。

それは、ユニコーンやペガサス達が持っている叡智がこの地球の進化にとって重要だからです。

この地球に住む人間が、それらの叡智を受けとり、自らを進化させると共に、この地球をより高次の世界へと導く必要があるからです。

私達は、このアバロンの叡智を開く事ができる人間が現れる事を長い間待っていました。そして、その日が今やってきたのです。」

PART2 アバロンの守護者アール・リュ・ダックス

ここで、このアバロンの次元を守っていた大柄なマスターが私達の前に進み出てひざまずき挨拶をします。

そしてマーリンに代わって語り始めます。

「私は、アバロンの世界を固く封印し守ってきた守護者です。

アール・リュ・ダックスと申します。

私は、アバロンの世界がまだ地上にあった時は、その統治者としてアバロンを守っていました。

マーリンをはじめとする多くの魔法使いと共に、アトランティスから逃れアバロンの世界を作ったのです。

そして、このアバロンを楽園とするためにユニコーン達のお世話をしながら暮らしていました。

私達の叡智は、この自然の力を利用したミスティックな能力です。

ユニコーンやペガサス、そして自然の精霊やフェアリー達と心を通わす事によってその能力は開かれます。

自然の中に生きるすべての存在が、この宇宙を創造した創造主の素晴らしパワーを持って生きています。

そのパワーは、植物一つ一つとっても異なります。

動物の中にも、それぞれ特有のパワーと能力が秘められているのです。

その秘密を解き明かしそれを利用する事ができるようにするのが私達の叡智です。

それらの叡智も、いまだ大切に保存されていますが、その力を発揮するためには、このアバロンの世界を再び呼び覚ます必要があるのです。

どうか、皆さんのお力で、アバロンの世界を目覚めさせてください。」

私は、アバロンの王の言葉にうなずき言葉をかけます。

「偉大なるアバロンの指導者よ、もちろん大

丈夫です。

皆さんの苦勞は報われ、希望はかなえられます。

私達も、アバロンが地球の物理次元とフェアリーやユニコーン達をつなぐ大切な場所である事を十分に理解しています。

私達は、アバロンの苦しみと悲しみを解き放ち、光の世界へと戻していきましょう。」

私達は、アバロンのマスターであるアールと共に歩み始めました。

そしてアバロンの高次元の世界へと向かっていきます。

岩肌の間を進むと、丸い穴があって、そこから光が満ち溢れています。

私達は、まるで「不思議な国のアリス」の様にその穴の中に滑り込んでいきます。

穴の底に着くといたるところに不思議な力を持つマスター達の存在を感じます。

マスター達は、まるで意識をなくしたかのように、横になったまま祈っています。

彼等は、自分達のスピリチュアルなすべての能力を使って、高次のアバロンの世界の扉を封印しているようです。

私は、自分のハートの中からオリハルコンを取り出し、その光で、マスター達の思いを癒し、彼らの力を解き放っていきます。

このアバロンの高次の世界を守るためだけに生き続けてきたマスター達の思いが、神聖な光の中に溶けていくと、マスター達が目覚めてきます。

私は癒しの天使達を呼び、眠りから目覚めたマスター達を癒していきます。

私達は、封印されていた扉を開き中に入っていきます。

扉の中は、とても美しい草原が広がり、上空からは柔らかい日差しも差し込んでいます。草原の中には、奥につながる道があり、私達はその道を歩いていきます。

やがて、草原の奥に美しい塔を持つ宮殿が見えてきます。

宮殿の中に入っていくと、中央の広間のような場所に、とても背の高いクリスタルがそびえたっています。

虹色に輝くクリスタルですが、クリスタルの上の部分には、黒い輪っかが取り付けられています。

私達が、その輪っかを見ていると、後ろから声がします。

「それは、このクリスタルの働きを制限するための輪っかじゃよ。

このクリスタルは、アバロンの高次の叡智を保存しているスピリチュアルな場所であり、アバロンの生命力を支える大切なクリスタルじゃ。

しかし、このアバロンが、崩壊してしまっただから、私達はいくつもの世界を封印してしまった。

我々の活動が目立たないように、このクリスタルの働きを止めて眠りについていたのでのじゃ。」

私が振り向くと、そこに長いひげを生やしたアバロンの長老が立っています。

手には木でできた節だらけの杖を持っています。

その言葉に、数名のマスター達も目覚め周りに集まってきます。

1人のマスターが、私達の前に進み出て話をします。

「我々は、このアバロンの高次の叡智とミスティックな能力を持って地球上に生きていました。

しかし、残念な事にアバロンは滅び、いくつもの次元に分かたれてしまったのです。

しかし、アバロンの伝説は、やがて復活の日が来る事を予言していました。

私達は、それが今であると信じています。」

私は無言で、ハートの中から光輝くオリハルコンを取り出し、このクリスタルの中に入れてみました。

オリハルコンの光は、クリスタルの中を上に向かって上昇していくと共に、クリスタルの先端に付けられている黒い輪っかをはじき飛ばしていきます。

クリスタルから、黄金色の光が所狭しとあふれ出していきます。

私はアポロン神殿のゼウスやポセイドン達をここに呼び出し、アバロンのクリスタルとアポロン神殿のクリスタルを光でつなぐようをお願いしました。

ゼウスやアポロン、ポセイドン達が、アポロン神殿から光の帯をもって降りてきます。

そしてその光の帯を、アバロンのクリスタルとつなげていきます。

するとさらに多くの女神やマスター達が目覚めてきます。

神殿の周りには美しい山々が輝き、自然が満ち溢れてきます。

風が吹き、木々の葉が揺れ、光がきらめいていきます。

木々や花の回りでは、フェアリー達が羽を広げ軽やかに飛び回り、小動物達も、木々の間から顔をのぞかせています。

女神達も目覚め、華やかな光が虹の様に世界

を包みます。

アバロンのリーダー達がクリスタルの前に集まり輪を作って祈り始めます。

私は、アバロンのマスター達を、この局部銀河系の叡智ある存在達を守護し成長させる神々のもとに導いていく事にしました。

PART3 アポロン神殿での祝祭

私達はフェニックス号に乗り、空高く舞い上がり、地球の次元を抜け、天の川銀河を抜けて、局部銀河系の最高次元にあるアポロンの神殿へと向かいます。

そこは、この局部銀河系全体に向けて強烈な光を放つ神殿となっています。

地球の次元を抜けてしまった事に対して、マスター達はとても驚いていましたが、今は、アポロン神殿の神々しい光の前で我を忘れて立ちすくんでいます。

アフロディティ達も神殿の前に現われ、アバロンのマスター達をにこやかに迎えています。

ゼウスが、アバロンのマスター達の前に立ち挨拶をします。

「私は、この神殿から皆さんの事を見守り続けてきました。

私達はこの宇宙がさらに豊かに成長するために、皆さんの様に叡智ある存在達を生みだし、それぞれの星に配置しました。

そして、素晴らしい文明が生まれ、皆さんの地球も、人類の発展に合わせて進化していきました。

地球では残念ながら、いくつもの文明が生まれては滅んでいきましたが、その中でいくつもの学びがありました。

これから、地球は新しい進化の道に入っていきますが、皆さんのアバロンが再び目覚め活動を開始する事はとても大切な事です。

今日は、皆さんの新たな再出発を祈って祝いましょう。」

ゼウスの言葉に、アバロンのマスターが答えます。

「私達を長い眠りから目覚めさせてくれた TAKESHI さん達へ心から感謝の気持ちを捧げたいと思います。

そして偉大なる神々が、再び私達の元に降臨してくださり、私達の文明の新たな出発を祝ってくださる事にも深く感謝します。

私達は多くの悲しみと苦しみを乗り越えてきました。

これからも新たな世界を作り出すために、自分達の力を使っていきたいと思います。」

アバロンのマスター達から大きな拍手が起こります。

私達は、全員でアポロン神殿のクリスタルの周りに集い、アポロン達の豎琴の響きに酔いしれています。

祈りの歌声が神殿にこだまします。

そして、その祈りは、地球のアバロンへとつながる光の道を形作っていきます。

PART4 アバロンの失われた世界

私達は、アポロン神殿でアバロンのマスター達の再出発を祝った後に、アバロンの統合に向けて動き出します。

最初は、レムリアやアトランティスでもそうだったように、文明の崩壊によって取り残されたスピリチュアル次元に入っていきます。この次元に残された魂達の救出を行わなければなりません。

前回と同じように、すでにドラゴン族や鳳凰族、ワシ族、ミミズク族のマスター達と大天使達が、私達が戻ってくるのを待っています。私達が戻ってきた事を見届けると、鳥族達の急降下が始まります。

このアバロンのスピリチュアル次元は、レムリアやアトランティスに比べるとさほど大きくもなく、閉じ込められている魂達も少数なので、生無き者は、天使達が直接光の世界へ導きます。

生ある者達は、フェニックス号に収容して、フェニックス号の医療施設で治療を行う事にしました。

ユニバーサル・パレスもアバロンの上空に来て、この世界全体に光を送っています。

アバロンから多くの闇のエネルギーがどんどん消えて明るくなっていきます。

フェニックス号では助け出された人々の悲しい記憶が癒しの天使達によってどんどん癒されて行きます。

魂の救出はほどなく終わりました。

闇の世界の奥深くに閉じ込められている魂も残っているようですが、天使達が首を振っています。

この魂達は、もう少しこの闇の中で、自らを戒めなければならないようです。

私達は救出に携わってくれたメンバー達に感謝の言葉を述べます。

しかしアバロンは、ここからが大変そうです。というのも、アバロンは魔法使い達によって様々な次元に分割され、それぞれが独自に封印されていますので、それらの世界をひとつひとつ訪ね歩き、封印を解除していかなければなりません。

PART4 アバロンの叡智の聖者

アバロンのスピリチュアル次元の中には、いくつもの暗いままの世界が残っているようです。

そこはマスター達によって封印が施されているために光が届いていません。

私達は、最初に案内された場所の封印を解き中に入ります。

そこは高い山々が立ち並ぶ中に、小さな部落が見えます。

まるで中南米にあるマチュピチュのような場所にも見えますが、アバロンの人達が逃げていった場所のひとつのようです。

私達は、岩が立ち並ぶ荒れ果てた場所へと降り立ちます。

とても閑散として寂しい気配が立ち込めています。

そこにコンドルの様な翼をもった鳥がやってきました。

どうやらこの世界のガイドのようですので、私達はその後続きます。

ガイドは暗いトンネルを抜け、洞窟の中に入ります。

私達もそこに入ると、そこには小太りのおじいさんが座っています。

石の上で何かを考えるようにうつむいたまま長い時間を過ごしてきたようです。私達を見るととても驚いた表情をして立ち上がります。

「伝説は正しかったのか！ あなた方は本当に私達を助けに来てくれたのですか？」彼の言葉に、アバロンのマスターアールが答えます。

「そうだ、予言は正しかった。我々が再び目覚め、救いの者達と共に新しい時代を作る時がきたのだ。さあ、偉大なる叡智の聖者を迎えにいこう。」

アールの話によると、この世界は、アバロンの叡智を隠すために作られた次元のようですが、そのマスターも捕えられて監禁されているようです。

もちろん、彼らを監禁してしまった人達は、もうすでにこの世界からいなくなっていますが、アールは、私達に叡智の聖者を助け出してもらいたいようです。

私達は、ガイドのコンドル共に、空中高く飛びあがり次の場所へと移動します。

私達がついたのは、荒野の中に張り巡らされた迷路のような壁の前です。

迷路といっても、ここの迷路はイリュージョン（幻影）です。

目的地にたどり着かないように、人工的に迷路を作り出し、来た人を迷わせる仕組みになっています。

私はコロボックル達にお願いしてその機械を破壊してもらいます。

すると、壁の様に立ち並んでいた迷路がなくなり、遠くの岩肌の所に扉が見えています。

この扉は、おそらく魔法によって封印されているようで、押しても引いても動きません。私は、先日から仲間になったカラス座の魔法使い達に、この封印を解き、扉を開くように命じました。

カラス座の魔法使い達とは、カラス座に魔法の学校があり、初心者クラスから、このユニバースやマルチバースの叡智を学ぶ上級者向けのクラスもあります。

今回上級者クラスの魔法使い達が、学びのために私達の活動に参加しているのです。

魔法使い達は、扉の前で呪文を唱えたり魔法の杖を振り回しています。

私達にとってはちょうど良い休息の時間です。

やがて、扉が大きな音を立てて開きました。扉の封印を解除する事に成功したようで、魔法使い達も少し誇らしげです。

私達は、扉の中に入っていました。

そこにはとても体格の良い聖者が、クリスタルを手にして座っているようです。

彼がアバロンの一番大切な叡智を守るマスターのようです。

アバロンのマスターアールが、聖者のもとに駆け寄り、その体を抱きしめたかと思うと突然泣き始めました。

「偉大なる兄よ、お元気でしたか。

ようやくあなたの事を迎えに来る日がやってきました。

アバロンの古の予言は、彼らの事でした。

私達はまた再び新たな文明を築き、この叡智を世界にもたらす事ができます。」

聖者も、突然の事に呆然としていましたが、

アールの言葉で事情が理解できたようで、うれし涙を浮かべています。

「私達が耐えてきたのは、決して無駄ではなかった。

大いなる神よ、自然界の精霊達よ、あなた方の恵みと約束の成就に感謝します。」

聖者も泣き崩れ、大地に何度も頭をこすり付けるようにして感謝の言葉を捧げています。

彼らが落ちつくまでしばらく時間がかかりそうです。

私は、他のアバロンのマスターにアバロンの叡智について尋ねました。

「アバロンの叡智は、私達と自然のエネルギーを結び付けるものです。

それは、森に育つ樹であったり花々であったりします。

あるいは、ペガサスやユニコーンなどから、様々な情報を受け取る事もあります。

ペガサス達は、まだ私達が見た事もない世界の事や宇宙に存在する星々の事、地球の気象や目に見えない働きなども教えてくれます。

自然の精霊と呼ばれるフェアリーのような存在を通して、その叡智が私達に伝えられることも良くあります。

自然の中にある樹木や花々は、私達の体と心を癒し成長させてくれる役割も持っています。

自然界のすべての存在はひとつにつながり、お互いを生かしあうという事をアバロンの叡智は教えてくれるのです。

このアバロンが崩壊する前に、黒いペガサスがやってきて、やがてアバロンが崩壊する事、そして地球の未来から大きな鳳凰にのった聖者達がやってきて私達を救いだす事を伝

えてきました。

これが、私達にとって黒いペガサスの救いの予言というものです。」

私は、その時、私達が生みだしたペガサスの新人種である「ペガリス」を思い出しました。彼の体の色は、漆黒で時と空間を超える能力を持っていますので、アバロンのペガサス達に呼ばれてここに来ていたかもしれません。確かに、私達が乗ってきた宇宙船は鳳凰族が作ってくれた鳳凰型の宇宙船ですから、予言の通りです。

私達は、叡智の聖者を伴って、この世界の神聖なる場所へと移動します。

この次元の神殿は、湖の中にひっそりと隠されていました。

私達が中に入ると、クリスタルもだいぶ傷ついていますので、急いでフェニックス号にあるクリスタルと交換します。

私は新しいクリスタルにオリハルコンを入れ輝かせます。

すると神殿が、湖の中から浮上して湖の上へと上がりました。

クリスタルの光は、この世界を光に満たし、さらにアバロンの世界へと広がっていくようです。

叡智の聖者も、とてもうれしそうに、久しぶりに帰ってきた神殿を見つめながら佇んでいます。

「アバロンの叡智が戻ってきた。

これからこの地球には、自然の働きを尊重して生きていく人達が増える事だろう。」

と彼は告げます。

私達は、叡智の聖者と別れをつげ、次の世界へと向かいます。

PART5 アバロンの光と闇のバランスを保つ世界

私達が次の世界に入ると、そこはとても暗い部分が残る場所です。

アールによると、ここはアバロンの闇の部分を管理し、世界のバランスをとるための場所のようです。

私達の前にかわいい鳥がとまります。

この世界のガイドのようです。

私達は、鳥と共に歩みます。

やがて私達の前に、ガラス張りの壁が幾重にも立ちはだかります。

カラス座の魔法使い達が、ガラスの壁の前に立ち、呪文を唱えたり杖で壁をたたいたりして出入り口を探しています。

しばらくして最初の壁が開きましたが、まだ幾重にも壁はありそうです。

魔法使い達は、全員で出入り口を一生懸命見つけようとしていますが、あまりにも時間がかかりそうです。

私は、彼らに空を指さしました。

つまり、ここのガイドは鳥なので、空を飛ばよいのです。

私達は、全員空に飛びあがります。

とべないメンバーは、羽を持った騎士団のメンバーに乗せてもらいます。

空から見ると、幾重にも壁が立ちはだかっています。壁の後ろには何もありません。

ここに来た人達をだますためのトリックだったようです。

私達はガイドの鳥と共に大空を飛び、空中に浮かんでいる特別な場所を見つけました。

そこには大きな箱のようなものが浮かび、封印によってその姿が隠されているようでした。

た。

どうやらここは、アトランティスの人達に見つからないように、アバロンのマスター達が自ら魔法をかけて隠している場所のようです。

私達はこの箱にかけられている魔法を解き放つと、そこから偉大なる聖者が出てきました。

この聖者も、アバロンのマスターアールの兄弟のようです。

アールは先ほどと同じように、聖者を抱きかかえ涙を流しています。

「偉大なる兄よ、私達のアバロンは再び生まれ変わります。

予言のとおり、アバロンの神殿も復活し、叡智の聖者も助け出されました。

今度はあなたが、あなたの世界を開く時です。」

弟の言葉を聞いて、光と闇の聖者も喜んでいきます。

杖を高く振り上げ、神への祈りの言葉を唱えながら、この世界に光を呼び込んでいるようです。

しばらくすると、どこかに隠された場所から美しい神殿が大空に浮上してきました。

このアバロンの光と闇の神殿は、もともと天空にあったようです。

私達は神殿の中に入りクリスタルのある場所へと進みます。

やはりしばらくの間隠されていたためか、元気がなくくすんでいますので、このクリスタルをフェニックス号につんであるクリスタルと交換します。

ここのクリスタルは、普通の透明のクリスタ

ルではなく、漆黒の色が入ったブラック・クリスタルです。

新しいクリスタルに、オリハルコンを入れると、素晴らしい輝きがこの世界を取り囲んでいきます。

光と闇の聖者は満足げに、神殿の玉座に座ると、私達に感謝の言葉を述べました。

「皆さんのおかげで、このアバロンは復活する事ができました。

心から感謝の言葉を述べたいと思っております。

我々は、この宇宙のエネルギーについて素晴らしい叡智を持っております。

私が持っている叡智は、皆さんにとって目に見えない不可視の世界から目に見える世界へ、様々なものを創造していく叡智です。

それが本当の意味での魔法です。

目に見えない世界は、ただ見えないだけで、そこには様々なものを生み出す力が眠っております。

我々はその力を精霊のパワーをかりて呼び出す事ができるのです。」

光と闇の聖者は少し自慢げに語り始めましたが、私の後ろに偉大なる魔法使いやマスター達が数名立ち並んでいる様子を見ると、それに驚いたのか、すぐに言葉を変えて話始めました。

「いやいや、大変失礼しました。

皆さんは、すでにその事についても十分ご理解されているようです。

我々は、それらの力を使って、アバロンの文明を作り出しました。

我々にとってユニコーンやペガサス達は、我々のマスターのような存在です。

我々は、彼らから、宇宙の真理を学び、創造

の世界の仕組みが使えるように教えてもらったのです。

しかしこの叡智が、自分達の欲望のために使用されると、宇宙は大きな混乱を招きます。そのために、私はずっと隠れておりました。」

私達が話をしている間に、アバロンのマスター達により、アバロンの各次元のクリスタルが光でつながれていきます。

アバロンの高次の世界のクリスタル、叡智のクリスタル、そして創造のクリスタル、全てがつながっていくようです。

PART6 アバロンのフェアリーワールド

私達にはまだ行わなければならない事があるようです。

次に案内された場所は、緑色の自然がたくさんある場所です。

フェアリー達やユニコーン達が集まり草原で遊んでいます。

ペガサス達が白い羽を広げて楽しそうに空を飛んでいます。

ここはアバロンの人達が、アトランティスの人達から傷付けられる事を防ぐために、ユニコーン達を隠した世界のようにです。

アバロンのマスターアールは、私達にこの世界のフェアリーの女神を助けてくれるようお願いしていきました。

「この世界は、お気づきの様にフェアリーやユニコーン達が存在している世界です。

アバロンにとっても、最も大切な場所、生命の源であり、アバロンが存在する目的の場所でもあります。

アバロンのフェアリーやユニコーン達は、この世界では楽しく生きていく事ができますが、彼らはこの世界を出る事ができません。

なぜなら、この世界の生命の源となるフェアリーの女王が、何かの力によって傷つけられ眠りについてしまったからです。

フェアリーの女王が眠りにつく事で、この世界は固く閉じられた世界となり、ここのフェアリー達が、ほかの世界で植物や動物達を育てる仕事ができなくなってしまったのです。」

私達が向かった森の中に、石で寝台のようなものが形づくられ、その上にフェアリーの女王が横たわっています。

周りには、数頭のペガサスとユニコーン達が、彼女を守るように佇んでいます。

私はすぐに、癒しの天使と宇宙の神聖なる魔法使い達を呼び寄せます。

天使と魔法使い達が、女王に光を送ると、彼女の胸に黒い物が突き刺さっている様子が浮かび上がります。

おそらく、この黒い物によって彼女の力は奪われ、眠りにつかされているのだと思います。

魔法使い達は、この黒い物を取り去るために、魔法の言葉を唱えますが、黒いエネルギーは彼女の胸元から外れません。

私は、自分のハートからオリハルコンを取り出すと、彼女の胸の上にかざします。

すると黄金色の光が彼女を包み、黒い物をドンドン溶かしていきます。

やがてフェアリーの女王は、目を開きました。そして、私達を見ると嬉しそうに微笑み、石の上に起き上がります。

「私は、いったいどれほどの時間眠りについ

ていたのでしょうか。

私は、ずっと朝もやが立ち込める中、お花畑を一人でさまよっていた気がします。あなたが、私を目覚めさせてくれたのですか。本当にありがとうございます。」

アバロンのマスターアールが彼女のもとにひざまずきます。

「女王よ、あなたの目覚めを我々は、お待ちしております。

新たなアバロンが始まっています。

光り輝く勇者達と魔法使い達が、アバロンを再び目覚めさせてくれたのです。」

女王は、石の上から降り立ち、私達の前にひざまずき感謝の言葉を述べます。

「皆さんの働きによって、私達の力が戻りました。

これから、たくさんのフェアリーが生れ、ユニコーンやペガサス達が活躍する世界となるでしょう。

アバロンのいくつかの次元も光でつながり、もっともっと豊かで美しい世界となるでしょう。

それではみなさんも一緒に私達の神殿へと戻りましょう。」

女王とアバロンのマスター、そして私達は、フェアリーの神殿に向かいます。

アバロンのフェアリー達の神殿は、森の奥深くに隠されているようです。

森の茂みの中を抜け、森の奥地に秘密の扉があり、そこを抜けると穏やかな日差しの中に美しい神殿が立っています。

フェアリーの女神が戻ってきた事を喜んで多くのフェアリー達が集まってきました。女神を取り囲んで、光の輪を作り喜んでいきます。

私達は、フェアリーと共に神殿の中へと入っていきました。

この神殿にあるクリスタルは思ったより美しいままです。

きっとフェアリー達が大切に守っていたのでしょう。

虹色の光を、神殿にいるフェアリー達へと放っています。

私は、このクリスタルは交換せずに、私のオリハルコンをそのまま入れます。

すると虹の光は、一段と強く輝き始め、フェアリーの神殿からあふれ出し、フェアリーの世界を包みます。

フェアリーの女神も、クリスタルと同じように虹色に輝き始めます。

私達は、このフェアリーワールドにアバロンの高次の世界のクリスタル達の光をつなげていきます。

そして、フェアリーを生み出す役目を持つフェアリー・キングを呼び出し、フェアリー達の神殿に光を送ってもらいます。

フェアリーの女神は喜びに顔を輝かせながら、フェアリー達に向かって語ります。

「私の愛するフェアリー達よ、私はここに戻ってきました。

私の愛するフェアリー達よ、あなた方と遠く離れていた私は、孤独と悲しみの中にいました。

再びこの神殿に戻り、あなた方の姿を見る事はもうできないかと思っていましたが、私達に奇跡が訪れたのです。

私は再び、愛するフェアリー達のもとに戻る事ができました。

ここに来てくださった勇者達により私の胸に刺さった黒いとげは抜き去られ、私は再び、フェアリーの女神として皆さんとともに働く事ができます。

フェアリー達よ、昔のように、アバロンの世界を美しい花々で満たしましょう。かわいい動物達も、再び呼び戻し、美しい楽園を作りましょう。」

女神は、フェアリーとともに喜び舞い踊っています。

私達は、彼らの再会の喜びを見届けると、静かにフェアリー達の神殿をあとにします。

PART7 アバロンの物理次元

私達は、最後に残ったアバロンの物理次元へと入る事にしました。

山の頂のような所にある秘密の扉から、奥の次元に入っていました。

そこには、所々に小さな丘や植物の緑も見えています。

ウサギやリスなどの小動物もいるようです。丘を抜けて歩いていくと、遠くに海が見えます。

海のそばには、小さな神殿が立っており、水の力によって守られている感じがします。

私達は、小さな神殿の中に入っていきます。そこには、様々なクリスタルに囲まれて一人の女神が立っています。

女神は、私達の事を最初はとても厳しい目で見ていましたが、アバロンのマスター達が入ってくると、とてもにこやかな表情へと変わります。

アバロンのマスターであるアールが、女神のそばに行き、私達の事を説明したようです。女神は急ににこやかな表情になり、私達の前にひざまずき感謝の気持ちを表してくれました。

「私は、アバロンの女神の1人でこの世界をずっと守ってきました。

時折、無作法な人達がこの世界に無断で入ってきて、この世界を荒そうとしました。

私はそのたびに獰猛な動物に姿を変えたり竜巻を引き起こしたりして、彼らをこの世界から追い出していました。

この世界には、まだ守らなければならないものがあります。

それはアバロンの世界が予言通り復活した時に、ここはアバロンの世界と地球をつなぐ大切な場所となるのです。

そのために、私達はここを守り通してきました。

あなた方がここに来てくださったという事は、予言が成就したという事でしょうか、もしそうだとすれば、私達は再び新たなアバロンを作り出す事ができるのでしょうか。」

アールが彼女の手を握りしっかりとした声で話します。

「そうです。予言は実現しました。

すでにアバロンのいくつもの次元は開かれひとつにつながっています。

叡智の聖者も光と闇の聖者もお元気です。

フェアリーの女神も目覚めました。

すべてが予言通りにうまくいきました。

あとは、あなたが守ってきた次元と他の次元をクリスタルの光でつなげるだけです。」

「それでは、この物理的な力をもつ世界に、天と地の光を満たしてください。偉大なる勇者よ、あなたに最後のお願いです。そうする事で、新たなアバロンが甦る事でしょう。」

私は、この次元の上にユニバーサル・パレスを配置し、マルチバースのマスターの光をこの次元に送ってもらいます。

そして「宇宙の大地」のマスターと神聖なる愛の女神、星々を創造する女神達を呼び寄せ、大きな光の柱を作ってもらいます。

光の柱は、深い大地の底からわき起こってきます。

空からも輝くばかりの光の柱が下りてきます。

それがこの神殿のクリスタルのところでひとつにつながります。

私は、神殿のクリスタルの中に、オリハルコンを入れ祈ります。

大地から沸き起こった光の柱と大空から降りてきた光の柱がひとつになり、大きな輝きと共に広がっていきます。

光の柱は神殿を包み、さらに神殿を超えてこの世界を包み込むように広がっていきます。光の柱の上にはフェアリー達の世界や叡智の聖者の世界、そして高次元のアバロンのスピリチュアルな世界も見えてきます。

光の柱ができる事により、いくつものアバロンの世界が繋っていきます。

それぞれ独立した世界ですが、お互いがつながりあう事で、新たなアバロンが生まれてくるようです。

私達は、さらに祈ります。

新たなアバロンと新しい地球が深くつなが

り、アバロンの叡智や神聖な光が、私達の地球やシャンバラ、レムリアともひとつになっ
ていくように・・・

そして、やがて新たな地球が生まれる時に、
新たなレムリア、新たなアトランティス、そ
して新たなアバロン、彼らの叡智と愛がひと
つに統合され、素晴らしい地球となりますよ
うに・・・

第9章 アガルタの伝説と新たな復活

PART1 アガルタ帝国の秘密

私達は、今日も地球の多次元を巡る旅をします。

私達が地球のいくつもの次元に入り、その世界を復興する理由は、地球がパラレルワールドに入り再統合される時に、それぞれの世界も、地球につながる大切な次元として、再建と統合が望まれているからです。

地球の中で過去に存在した文明は、確かに一度滅びたかもしれませんが、その文明が持っていたエネルギーや叡智を再び呼び覚ます事ができたなら、その叡智は地球の進化に大いに役立つ事でしょう。

私達は、今日も創造主の神殿に入り、アディティヤ様と相談します。

今日は、地球に残された次元の内、アガルタ帝国とシャングリラに行ってほしいようです。

アガルタ帝国に関しては、名前は時おり聞きますが、地球の内部にある世界という事だけで、その内情は良く知られていません。

シャングリラも伝説として扱われていますが、内情はほとんど分かりません。

私は、これらの文明に関して詳しい情報を持っているマスターを呼び出します。

すると大天使メタトロンが出てきてくれました。

大天使メタトロンは、この地球が多次元に移

行する事を私達に最初に教えてくれたマスターであり、その移行をサポートするために、現在の地球から未来の地球へとつながるタイムラインを作ってくれています。

「TAKESHIさん、いつもありがとうございます。

皆さんの働きにより、アトランティスやレムリアが再び活動できるような状態に戻りました。

そしてそれらの文明の叡智が一つにつながってきた事は、地球にとっても素晴らしい出来事です。

なぜなら、全ての文明も、全ての次元も、もともと地球と一つだったからです。

地球の大きな世界の中でいくつもの次元が作られましたが、それらの世界が荒廃し分離したままでは、地球も十分な力を発揮する事ができません。

皆さんが、それぞれの世界に降り立ち、荒れ果てた世界を立て直してくれた事により多くのマスター達が目覚めてきました。

そして、クリスタルを通して、それらの文明の叡智を、しっかりと地球につなげてくれたおかげで、この地球は自分の中で様々な次元の統合を行っていく事が出来るのです。

これから行くアガルタの世界は、とても高度な意識を持っていた世界でした。

レムリアやアトランティスとも関わりをもって存在していましたが、彼らは地表に出る事なく、地球の内部の次元を使って生存していました。

それは、地表と違って環境が安定していたためと他の文明や人々の影響を受ける事を防ぐためでした。

アトランティスやレムリアが荒廃の道を歩

み始めた時に、アガルタはその扉を閉ざし、地球の内部次元において、フェアリーやユニコーン、ペガサスなどの神話的な存在や地球の自然や動植物達に宿る精霊達を守護しながら存続してきたのです。

その伝統は、一部アバロンに引き継がれ、地表においても、ユニコーン達の生育が試みられましたが、その試みは失敗に終わりました。アガルタの人々は高次の精神性と情報を持って素晴らしい文明を作り上げましたが、残念なことに地下帝国ゆえの環境の中で、次第に生命力を失い、やがて滅んでいきました。

このアガルタの世界は、レムリアよりも以前に会ったアンドロメダ文明の影響を受けていましたので、アンドロメダ銀河で生みだされた叡智や先進的な技術も持っていたようです。

このアガルタが保有していた叡智は、地球が多次元に移り変わる時に作られる地下都市に関する情報なども含まれていますので、その叡智をぜひ復活させてください。」

大天使メタトロンの話は、今までに聞いた事もないような事ばかりです。

私達は、彼の情報をもとに、アガルタの世界に入っていく事にしました。

私達はフェニックス号に乗り込み、アガルタの世界を目指します。

PART2 アガルタの残された都市

私達は、一度地球の外に出て目標となる場所を見つけます。

そして、ある場所から海の中にもぐり、地球

の次元が変わる場所を通過して、さらに地球の内部次元へと入っていきます。

そこには、大天使メタトロンが準備してくれた光の柱が、地球の中心に向かって伸びていますので、その柱を通過してアガルタへと向かいます。

しばらく行くと、光の柱の横に大きな扉が現れましたので、私達は、その扉をフェニックス号ごと通り抜けていきます。

扉を通過すると、私達は大きな空間の空の部分に出ます。

そこはとても自然豊かな場所で、森や湖、遠くまで広がる平原があります。

地球の内部の次元にこのような世界があるとは思ってもいませんでした。

私達はしばらく、この世界の空を飛んでいましたが、とある森の上にさしかかるとフェニックス号は、地表に向かって降下をはじめます。

私達の目の前にある森が左右に開き、大きな通路が現れます。

私達はその中に入っていくと、今度はとても近代的な地中都市が見えてきます。

私達の中に入り終わると、先ほどの扉が閉まり、通路はなくなります。

もしかしたら、先ほどの自然豊かな世界は人工的に作られたホログラムかもしれません。

そこは、私達が通常、大都市で見ているような近代的な建物が立ち並ぶ都市のようですが、そこに人々が住んでいるような活気は全くありません。

私達は、宇宙船が停泊する事ができるような広い場所を持つ大きな建物の所に誘導されていきます。

どうやら、宇宙船はすべてこの場所に来るよ

うにシステムが出来上がっているようです。フェニックス号が着陸すると、私達は船を下ります。

私達の正面にある大きな壁が、まるでシャッターが上がるように、下から持ち上げられ開いていきます。

まるで、「スタートレック」などの映画に出てくるようなシーンなのでドキドキしてしまいます。

私達は、扉の中に入ると、そこには大きな広間があり、奥にはクリスタルも見えています。私達を出迎えてくれたのは、賢者の様ないで達をした男性のマスターです。

マスターは私達を見るととても驚いた様子で迎えてくれます。

私もマスターに挨拶をします。

「偉大なるアガルタのマスターよ、あなたがいままでアガルタの叡智を守ってきてくれた事に深く感謝します。

アトランティスやレムリアも復興しひとつの次元につながっていきました。

次はこの世界を、復興させ地球と統合するために、私達はやってきました。」

「あなた方が来られる事は、大天使メタトロン様からお伺いしておりましたが、この世界に他の世界から宇宙船で来られるのは、私は初めて体験しました。

以前はそういう事もあったように聞いておりましたが、今ではこのアガルタは眠りについたかの様に静かです。

ここを訪れる方もほとんどなく、私達もドラゴンやフェアリー、ユニコーン達と共に静かに暮らしておりました。

この世界には、もうすでに人はいなくなり、

私達の様にスピリットとして数名が残っているだけとなっております。

私達も皆、年老いてしまいましたので、いつかその灯も消えてしまうのではないかと心配していたのです。」

PART3 地球の内部の次元を守ってきたアガルタ

「このアガルタの現在の状況はどうなっていますか、私に教えてください。」

「現在のアガルタは、昔の様な活気は残っていません。

私達数人のマスターが、スピリットとして残っているだけです。

後は、数頭のドラゴン達が、ユニコーンやペガサス、フェアリー達を守って暮らしています。

昔は、人々が高次の文明を作り、とても賑やかでしたが、それらの人々はもうすでにいなくなりました。

その当時に使われていた機械や建物はそのまま残してありますが、いずれも過去のものです。」

マスターは、昔を懐かしむように語ります。私達には、彼は賢者の様に見えますが、どことなく光が薄いような気がします。

これが、生命力が衰えているという事でしょうか。

「このアガルタでは何をされていたのですか。

これらの機械の目的は何だったのですか。」と私は尋ねます。

「アガルタに残された機械達は、この地球に

生れたいくつもの文明をつなげていく為の装置です。

アトランティスやムー、レムリアの文明は、とても優れた文明でした。

最初はお互いを尊重し合い、とても仲良く生存していたのです。

私達は、彼らと常に交流を行い、この地球をより良いものにするために、共に活動しておりました。

そしてもう一つこの機械達の大切な目的は、私達の文明と宇宙の星々をつなぐ働きをしていたのです。

私達の文明がこの世にあった時は、人々は宇宙にあるいくつもの星々の人達ととても仲良く交流していました。

彼らから多くの叡智を学び、能力を高めていたのです。

この機械は、主にそれらの星々の人達と私達をつなぎ、連絡を取り合うための物だったのです。」

私は宇宙工学に詳しいベラトリックスとマスターA に来てもらい機械の状況を調べてもらいました。

「TAKESHI さん、この機械は、使えない事はないけれどかなり古いですよ。

もう過去の遺物といっても良いくらいのものですね。」とベラトリックスは言います。

「そうだろうね、この機械を再び使う事はないかもしれないけれど、修理をしてください。」

私のお願いを聞いて、メンバー達が集まり、システムの修理が始まりました。

私は、アガルタのマスターの方に向き直り、話を続けます。

「それで、このアガルタ文明の目的は何だったのですか。」

「アガルタの目的は、地球の内部の次元を守る事でした。

地球の内部の次元は、いくつもの文明を生みだす母体となる物です。

地球の内部は、地球の惑星意識とも深くつながっており、地球が進化していく時や地球に新しい文明が生れる時にはなくてはならないものです。

私達がこの次元を守る事により、地球は安定した成長を行う事ができるのです。

ここにいるドラゴンやペガサス達は、とても特殊な働きを持っています。

それはこの地球の内部の次元を守るとともに、新しい次元が生まれる時にそのサポートを行うのです。

アガルタは、地球に生れたいくつもの文明の誕生を手助けし、その後も見守ってきました。それらの文明の成長と深く関わり、よりスピリチュアルなレベルに移り変わっていく事を助けてきたのです。

しかしいくつもの文明が滅びるに至って、私達も大きなダメージを受けてしまいました。現在地球の上で、皆さんの文明が今までにないほどに高次の素晴らしい文明を作り上げてきましたが、その一部には、とても大きな荒廃が起こり、文明の根幹を崩そうとしています。

過去に何度かとても大きな争いが起きた事を私達も見ていましたが、私達も力を失い、皆さんの文明に対して手助けできなかった事をとても残念に思っています。」

「アガルタのマスターよ。

私達は、今まで皆さんが素晴らしい活躍をしてくださった事をととても感謝しています。なんとか、このアガルタの世界の光を取戻し、再びこの地球の内部次元を守る事が出来るようにしてあげたいと思っておりますが、どうしたら良いですか。」

「それは、本当ですか。私達もその事をずっと願い続けていたのです。」

アガルタのマスターの周りにいくつもの光が現れます。

きっと私達の話聞いていたスピリット達が喜んで姿を現してきたのでしょう。

PART 4 アガルタの復興

アガルタのマスターは建物の奥へ私達を案内してくれました。

そこには、とても大きなクリスタルとクリスタルに連動している機械達があります。

このクリスタルは、このアガルタの機械の動力源となっておりと共にアガルタの生命力でもあるようです。

さほど傷ついているわけではないのですが、ほとんど輝きが見られません。

私は、クリスタルにオリハルコンを入れます。クリスタルの中でいくつかのスパークが起こり、クリスタルが振動します。

私は、フェニックス号にもお願いして、光をこのクリスタルに向けて照射してもらいます。

フェニックス号の光がレーザー光線の様にクリスタルに向かって放たれていくと、クリス

タルも光輝き始めます。

しばらく様子を見守っていると、クリスタルの内側から次第に光が広がっていく事が分かります。

アガルタのマスター達が祈り始めると、クリスタルの光はさらに大きく輝き始め、周り一面が光に広がっていきます。

クリスタルの上空では、アガルタのドラゴン達やペガサス達が旋回しているようです。

ドラゴン達の光も降りてきて、クリスタルの光と繋がっていきます。

クリスタルがさらに輝き始めると、クリスタルの中から、アトランティスやレムリア、シャンバラ、ムーのマスター達が現れます。彼らも突然ここに呼び出されてきたようで驚いています。

彼等は、私とアガルタのマスター達の姿を見ると、状況が理解できたらしく、アガルタのマスター達の輪の中に入り共に祈り始めます。

私は、マスター達に静かに呼びかけます。

「アトランティスのマスター、レムリアのマスター、シャンバラのマスター、ムーのマスター、そしてアガルタのマスターよ。

この地球を彩ったいくつもの文明のマスター達がここに集まってくださった事に感謝します。

地球はこれからとても大きな進化と変容に向かって進んでいきます。

あなた方の世界が、それぞれ元に戻り、あなた方が保持してきた叡智と光がこれからの地球をより良い方向に導いてくれる事でしょう。

アガルタの世界も、今復興しました。

この地球の内部を支え、皆さんの次元を生みだしたアガルタがもとに戻る事により、皆さん達の働きも一つにまとまり、より素晴らしいものとなる事でしょう。

これからも、皆さんが手を取りあって、共に活動していただける事を祈っています。」

私は、「宇宙の大地」のマスターと地球の惑星意識ガイアを呼び出し、この地球が安定した成長を行えるように、このクリスタルと光をつないでもらいます。

このアガルタが再び稼働する事により、地球もさらに素晴らしいものとなる事でしょう。

このクリスタルの奥から次元の扉が浮かび上がります。

その前には、大天使メタトロンが立っていますので、おそらく彼がこの扉の守護者のようです。

メタトロンが私達に言います。

「この扉の向こうには、アガルタと他の文明をつなぐ秘密の通路があります。

この扉を開き次元の通路を使う事によって、他の次元や他の世界に行く事ができます。

スピリチュアルな存在ならば、自由にこの通路を使う事ができますが、地球のエネルギーが今大きく変化していますので、時折、この通路も不安定になるので気を付けてください。」

確かに便利そうな通路ですが、しばらくは使用しないほうが無難なようですね。

私達は、この場で祈りを捧げ、アガルタの復興を成し遂げた後、最後に残されたシャングリラへと向かう事にしました。

第10章 シャングリラの夢

PART1 素朴な楽園 シャングリラ

私達は、伝説の都シャングリラへと向かう事にしました。

シャングリラは、ヒマラヤ山脈の近くにある地球の別次元として存在しているようですが、一般的には地下に下りていくような感覚があります。

私達も、次元の入り口から滑り台を降りていくような感覚でシャングリラに入っていきます。

私達が降り立った場所には、杖を持ち白いローブを着た賢者が待っています。

彼は、ようやくこの時期が来たという表情で私達を見えています。

私達も、周りの美しい自然をみながら、シャングリラの美しい姿に思いを寄せています。

「この素晴らしい楽園に来れた事を私達はとてもうれしく思います。」と私は挨拶をします。

賢者も私達のもとに歩み寄りにこやかに笑いかけます。

「あなた方が、このシャングリラの世界までたどり着いてくださった事を心から喜んでいます。

ようやくあなた方に、このシャングリラの秘密を伝える事ができる日が来た事をうれしく思います。」

賢者は、私達を静かな森の方に向かって案内します。

小鳥達がさえずり、賢者が歩く道では、賢者

の後を追うように小さな花が開き始めます。
私達は、湖のそばまで歩くと、その周りの石の上に座ります。

かわいい鹿やリス達も、森の中から様子を見ているようです

「このシャングリラは、レムリアやアトランティスなどの文明の最終的な目的地として作られました。

シャングリラは、この地球と宇宙をつなぐ神聖な場所として作られたのです。

このシャングリラの存在は、伝説として伝えられています。

それは、時折、このシャングリラの様な世界がある事を皆さんに知らせ、楽園というものが存在する事を皆さんに思い出してもらいたかったためです。

私達は、そのために選ばれた人をこの次元に案内して、この世界の美しさを皆さんの世界に伝えてもらいました。

しかしながら、私達のシャングリラの世界と地球の人々が想像する楽園とはだいぶ異なるものになってきましたので、私達は再びその門戸を閉ざす事になりました。」

「それは地球の人達が、自分達の要望を満たすために長寿であるとか美女や美食をこの楽園に求めたためですか。」

私はシャングリラの賢者に尋ねました。

「そうです、楽園とはそのような欲望を満たすための世界ではありません。

私達の楽園は、この地球に生きるたくさんの動物や植物達と仲良く暮らす事なのです。

あなた方は、その事に気づきました。

そして、自らの意識と肉体を、DNAを活性化しライトボディに変える事によって、私達

の世界に入る事ができるようになったのです。

あなた方は、このシャングリラに入る資格を得たといっても良いかもしれません。」

私達の心の中に、シャングリラの様々な姿が浮かびあがります。

決して近代的ではないのですが、素朴で美しく整った家々とそこで楽しそうに暮らす家族達。

町の周りには、花が咲き乱れる野原があり、鳥やリス、キツネ、ウサギなどの小動物達が、人と共に戯れている様子や小さな泉で遊んでいる子供達。

そこは、一時代前のスタルジックな光景のようにも見えますが、とても素朴で美しい世界の様です。

「それでは準備ができたようですね。これから地球の大切な叡智について、あなたにお話ししましょう。」

聖者がそう語ると、聖者の意識が私の中に入ってくる事を感じます。

私は聖者の意識に身を任せ、私の言葉を通して聖者が語りかけてきます。

PART2 地球が意識進化するために生まれてきたいくつもの文明

「偉大なる光の旅人よ。あなた方が、ここにやって来てくれた事に深く感謝します。

そしてまた、あなた方が自らの意識を高め、私達の叡智、神聖なる意識を分かち合ってくれる事をさらに嬉しく思います。

あなた方が、この素晴らしい光の世界、愛の世界へ来てくださった事をとても感謝しています。

私達は、今からあなた方に、とても大切な事をいくつかお話したいと思います。

まず、このシャングリラ、そして他のいくつもの次元の文明に関わる事ですが、それらの文明は、地球が原始的な世界から、少しずつ成長して、より高次の世界へと移り変わる段階的な状態を象徴していると考えてください。

最初にアンドロメダ文明が有りましたが、この文明は突然滅びてしまいました。

そしてアンドロメダ文明にかわってアトランティス文明やレムリア文明が生まれてきました。

そして、それらの文明から枝分かれするかのごとくアガルタやシャンバラ、ムーなどの文明が生まれてきました。

一つ一つの文明は、独自の叡智を持ち、地球に豊かさと進化をもたらして、地球が高次元の世界に向かって進んでいく事を助けてきたのです。

それぞれの文明の成長と共に、地球は自らの意識を成長させ、次元上昇の道を少しずつ歩んできました。

そして、最終的にアガルタ文明やレムリア文明などから楽園とも呼ぶべきシャングリラが生れたのです。

それらの文明の誕生と崩壊は、この地球の進化にとって必然的なものでした。

それ以降も、皆さんの歴史の中で多くの文明が誕生し崩壊していています。

あなた方が魂として、いくつもの文明を生き、

そこで培われてきたいくつもの叡智を身に
着けた事も必然でした。

あなた方は、長い時を経て、再びこの地球に
起こったいくつもの文明の元に戻ってきました。

あなた方の魂が、いくつもの文明を体験し、
素晴らしい叡智を身につけた理由は、新たなる
光の存在としてこの地球から、新たなる文
明、新たな命を作り上げていくためです。

この地球は、いくつもの文明の叡智を統合し、
さらに次元を上げていく予定でした。

地球の次元がさらに上がったところに生み
だされる世界が、あなた方が現在創造してい
るアセンションした世界なのです。

この地球で、アンドロメダ文明から始まって、
いくつもの文明が起こっては滅びる中で、よ
り優れた叡智と生命達のエネルギーが創り
だされ、その情報があなたのスピリットの中
に刻み込まれていきました。

あなた方は、この地球のいくつもの文明と次
元を生きる事によって、その文明が創りだす
最高度のエネルギー、最高度の形を表現する
事ができるようになりました。

その叡智と経験は、新しい地球が生まれる時
に、とても大切な働きをします。

地球の文明を作るためには、シリウス星やベ
ガ星、アルクツールス星、あるいはプレアデ
ィス星団やアンドロメダ銀河などの様々な
文明の人達が関わっています。

最終的には、オリオン星雲の人達も関わり、
シャングリラやシャンバラなどの文明に大
きな影響を与えてきました。

オリオン星雲というのは、フェアリーやペガサス、ユニコーンなどの神話的存在を生み出してきた星でもあります。

あなた方が、オリオン星雲の四大エLEMENTの星々に行き、そのエネルギーを調整する事を行ってきましたが、その事もとても深い意味があります。

神話的な存在を作り出し保持するエネルギーは、このオリオン星雲から生まれてくる事が多いのです。

オリオン星雲のエネルギーが調整される事によって、この宇宙に生存する神話的存在へと送られるエネルギーが更に強まっていきます。

神話的な存在とは、ユニコーン、ペガサス、フェアリー、ホビット、マーメイド等ほかにも様々な種族がいますが、彼らはこの宇宙を守るためにそれぞれの目的と役割を持って存在しています。

ユニコーンやペガサスは、偉大なる叡智を支えています。

その叡智は、宇宙と星の成り立ちに関する叡智、あるいは生命の成り立ちに関する叡智です。

フェアリーやホビットは動植物の誕生と育成にかかわり、マーメイド達は海の生物のお世話をします。

この星や宇宙はあなた方がブラフマンと呼んでいる存在から生まれてきました。

大宇宙の創造の源である虚空からブラフマンは生まれ、ブラフマンによってこの宇宙は創造されたのです。

そしてその中に叡智ある存在達や神話的な存在達も数多く生みだされていったのです。

宇宙は、虚空からブラフマンから生み出され、ブラフマンを通していくつもの次元と星々を作り出されます。

そして星々はその役割に応じて集められ、様々な働きを持つ星団、銀河が生まれるのです。

そして、生まれてきた星々の中には、星々を成長させ発展させるために、物理的な次元が作り出され、叡智ある存在達が生まれてくる星も出てきます。」

賢者はとても深い話しを私達にしてくれました。

PART3 アトランティスの暴走と愛の遺伝子の保存

「それでは話を再び地球に戻しましょう。かつて他の星から来た人達は、地球に生まれた存在達の意識を高め成長させるために、地球人の遺伝子の中に、競争力という遺伝子を埋め込みました。

レムリアやアトランティスの文明が始まるずっと前の話ですが、考えてみるならばその事が全ての過ちの始まりだったのかもしれませんが。

地球の人々は、意識が今まで以上に速いスピードで成長するとともに、お互いが競争し争うようになりました。

そして、自分が優位になるために、相手を攻撃したり支配するようになったのです。

それは人間の遺伝子の中に組み込まれた性質だったために、その事を完全に取り除く事はできませんでした。

しかし、レムリアの人達は、その遺伝子の働きを抑える事に成功し、豊かな文明を築いて行きました。

レムリアの人達は、その競争の遺伝子が活性化する事はありませんでしたので、他の人々や他の種族との協調をはかり、平和で美しい世界を保っていました。

しかしながらアトランティスの人達は、この競争の遺伝子が非常に活性化してしまったのです。

そのためにアトランティスの人達はレムリアや他の文明にたいして、侵略や支配を行うようになりました。

アトランティス人は、競争遺伝子を抑える事が出来なかったため、彼らは階級を作り、自分自身を偉い存在として他の人から区別するという事が起こったのです。

その事に危機意識を持ったレムリアの人達は、その危機意識によって競争的な力を目覚めさせてしまいました。

それまでのレムリアは、この競争意識という遺伝子を制限された人達がたくさんいましたので、とても平和で美しく共存共栄に満ちた世界だったのです。

その結果、皆さんがよく知っているように、レムリアやアトランティスの悲劇というものが生まれました。

アトランティスの人達は遺伝子操作やクリスタル等の自然界のエネルギーを操作する事に非常に長けていたのです。

そして彼らはそれを自分達の競争力のために使いました。

自分達が、他の存在よりも優位で力のある存在として君臨するために、遺伝子操作などを

行い自分達に都合の良い社会を作り始めたのです。

そして、自然界の大切なエネルギーである地殻のエネルギー、火山のエネルギー等も自分達の欲望や支配のために利用し始めました。そのためにアトランティスの社会は、搾取や差別に満ちた秩序のない世界になってしまいました。

アトランティスだけであればそれもよかったのですが、アトランティス人の支配がレムリアやアバロンに及ぶにつれて、地球の中にとっても大きな混乱が起こりました。

神々は一旦その混乱を収めるために、この地球をリセットしました。

レムリアやアトランティスそしてアバロンも、海の底あるいは大地の底へと沈んでいったのです。

しかしながらその時の叡智、あるいは競争力を抑えた遺伝子を持つ人々の存在というのは、やがてきたるべき時のために、残しておくかなければなりませんでした。

レムリアにおいては、あなた方によって作られたドルフィン・アソシエーションというグループが、レムリアの神聖なる叡智を保存する事を行いました。

それは、愛と協調を基本とした遺伝子、そしてそこから生まれてくる人々の意識と叡智を、保存し残すというところに焦点を当てられたのです。

そしてアバロンやアガルタというのは、スピリチュアルで神話的な存在達を保護するという役割を果たすために、その次元は存続させられました。

美しいフェニックスやユニコーン、あるいはフェアリー達がその中には十分にとどまっています。

そしてその中で彼ら独自の叡智を保ち続けてきたのです。」

PART4 新しい宇宙を創るための叡智の統合

「それではシャングリラというのとは一体何なのか、またシャンバラやムーというのとは一体何なのかについても、少しお話ししましょう。

シャンバラとムーは、あなたがたに対してそれぞれのマスターが語ったように、地球の大いなるバランスを取るための文明でした。

「宇宙の大地」や偉大なるセントラルサンと繋がって、地球に安定とバランスのとれた成長を保つために作られた文明だったのです。あなた方の中には、このシャンバラとムーに生きていた人達もいます。

TAKESHI さんもそうですね。その場所に確かに生きていました。

なぜその場所に生きていたのかというと、その時の叡智を、自らのスピリットの中に取り込むために、その時代に生きてきたのです。

あなた方のメンバーの中には、いくつもの文明を過ごしてきた人達もいます。

ムーやアトランティス、レムリアだけでなく、アガルタやシャングリラ等の文明に生きていた人達もいます。

いくつもの文明の神聖なる叡智を、自らのスピリットの中に取り入れ、より優れた人類の形を作るためにいくつもの文明の中で活動

してきたのです。

あなた方の中に統合された叡智は、新たな地球を創造する時の基本となって、新しい世界、新しい人類を作り始める事でしょう。

このシャングリラももうすでに古くなってしまいました。

ずっとこの次元を私達は保っていましたが、皆さんの姿を見ると、私達が守っていたものはもうすでに時代遅れになっているのではないかと思うほどです。

あなた方は新しい宇宙と次元を開きました。私達の叡智、私達の意識、私達が命をかけて残してきたものは、もう全てあなた方の中に備わっています。

あなたの中でレムリアやアトランティス、シャンバラやムー、アバロンの叡智を統合し、一つの新たな形を作り上げ始めました。

私達が教えられるのはもうこれで最後です。あなた方は、星々の叡智も身に付けました。星々のつながりや、星々はどのようにして生まれるのか、どのようにして星々が作られていくのか、この事もあなた方はもう既に知っているらっしゃいます。

そしてあなた方は、これからそれらの叡智をもっと多くの人と分かち合う必要があります。

多くの人達にこの宇宙の真理を教え、この宇宙がどれだけ素晴らしいのか、あるいはどれほどの悲劇と苦しみを乗り越えてきたのかという事をあなた方は伝えていく必要があるのです。

あなたがすばらしい世界を創造していくために、過去を記録し、過去を自分達の踏み台

としてください。

もし地球が苦しい悲しい過去があったとするならば、その原因を解き放ち、あなた方の手で苦しみも悲しみもない地球を創りあげて下さい。

その事が私達の願いです。

そしてあなた方によって、私達の思いが成就させられた事を心から感謝します。

多くの次元のマスター達は、全てあなたの中に溶けていきます。

そして新たな地球と共に、あなたと共に甦ってきます。

私達は新しい世界で甦ってゆきます。」

シャングリラの聖者は、その事を伝えると、すーと煙のように消えてしまい、ただ1本の杖だけがそこに残されていました。

しかし、彼の思いは、彼の言葉を通して私達の中に深く残っています。

私はその杖の横にそっとオリハルコンを置きました。

彼の杖が輝き、その光は、シャングリラの世界に広がっていきます。

第 11 章 地球最古の文明が 作った宿命

PART1 地球と太陽、月のバランス

この日のツアーでは、私達は、地球の様々な変化によって、地震や台風、火山、噴火などの地殻変動にかかわる現象がかなり活発になってきているので、地球のバランスを保つために、地球と太陽、月のエネルギーを一つにつなぎ、ユニバーサル・パレスの光をそこにもたらすように言われました。

私達は、ドラゴンや騎士団達を連れて地球の中心に降りていきます。

マスターから案内されてたどり着いた地球の中心には、光を蓄える大きな空間がありました。

中央のクリスタルの周りには、もうすでにシャンバラやレムリア、アトランティスなどのマスターが集まり、大きな輪を作って祈っています。

地球のホーリー・クリスタルは、地球に多くの光を蓄えるだけでなく、地球のいくつもの文明の次元を結び付け、それらの次元に対しても光を送っているようです。

私達は、このクリスタルの光によって、地球のそれぞれの文明がさらに理想的な形で統合され、地球の愛と叡智のエネルギーが一つになるように共に祈り始めました。

私が、ブラフマンのオリハルコンをクリスタルの中に入れると、クリスタルのパワーはどんどん高まり、クリスタルの光が一斉に広が

っていきます。

ユニバーサル・パレスからも高次元の光が滝のように勢いよくクリスタルの中に流れ込んでいきます。

サポートに来てくれたブラフマンと魔法使い達が、特別な神聖幾何学を描き、クリスタルの中にそのエネルギーを保管しとどめています。

このエネルギーは、地球がパラレルワールドに移り変わる時に使用されるようです。

ユニバーサル・パレスは、さらに光を増幅し、地球全体に大きな光を放っていきます。

次に私達は、このクリスタルと各文明の叡智や愛を光につなげさらに高めていくために、各文明の次元の扉を開いていきます。

ペガサスや巨人族のスティックス達、そしてマスターと騎士団が、それぞれの文明に向かって一斉に飛び立ちます。

大天使メタトロンとたくさんの天使達、そしてフェアリー・エンジェル達も応援に来てくれたようです。

ペガサス達と一緒に、きらきらとした光を振りまきながら楽しそうに働いています。

マスターが私に語りかけてきます。

「TAKESHI さん達の活躍のおかげで、地球のそれぞれの次元に残された文明達も蘇りました。

各文明のマスター達が孤独に耐え、次元の歪みによって、スピリチュアルな世界が崩壊しないように長い事守ってきたのです。

彼らは、自分達が作り上げた文明の目的を十分に知っていますし、それらの叡智とエネルギーが、これからの地球にとってとても大切なものになる事を知っています。

そのために、生命を長く保ち、あなたが来る事を待ち続けていたのです。

そしてあなたは、これらの文明のもとに降り立ち、彼らのスピリチュアルな次元を救い出しました。

崩壊した文明に残された魂達を、その苦しみと悲しみから救い出し、光へと導きました。さらに荒廃してしまったスピリチュアル次元を目覚めさせ活性化しました。

マスター達も元気になり、昔ながらの力を取り戻してきたようです。

マスター達は、再び一つになり、ともに協力して活動していく事でしょう。

すべての者達が、この地球を愛し、地球の素晴らしい未来を夢見ているのです。」

シャンバラやムー、レムリアなどの文明は物理レベルでは、破滅してしまいましたが、スピリチュアルレベルでは、その叡智とエネルギーはしっかり保存してあり、地球の未来のために使用される時を待っているのです。その時が、近づいてきた事を私達も感じます。

私達は、各文明とメインのクリスタルの通路を守るために、各所に少し小さめのクリスタルを配置し、通路のエネルギーを保護します。各文明のマスター達は、この通路と自分達の文明のメイン・クリスタルを、光でつないでいきます。

それぞれの通路を通して、色とりどりの光がメイン・クリスタルに流れ込んできました。メイン・クリスタルは、さらに輝きを高め、その光を各文明のメイン・クリスタルに戻していきます。

それぞれの光が一つにつながり、華やかに輝き始めます。

まるで巨大なクリスマス・ツリーのようです。これで、地球のメイン・クリスタルと各文明

のメイン・クリスタルがしっかりとつなわれ、それぞれの叡智とパワーが共有されていきます。

地球全体のエネルギーが、その喜びに体を震わせるように、大きく振動していきます。

PART2 最古のブラック・ホール 時のひずみ

マスターが私のほうを向いて、真剣な顔をして話しかけてきます。

「TAKESHI さん、本当にありがとうございます。

それでは、この地球の次元の中でも最大の問題に取り組みましょう。」

私は思わず「エ！」と言ってしまいました。

「これらの文明が一つになる事で、地球の多次元の問題は解決されたと思っていましたが、まだ何か残っているのですか。」

「そうです、地球最古の文明とレムリア文明の間には、まだ解決されていない大きなひずみが残されています。

それは時のひずみとも呼ばれ、レムリア以前の文明の記憶を消滅させるために存在していますが、その地球最古の文明がもたらしたエネルギーは、地球の宿命とも呼べるほどの大きなエネルギーを残してしまったのです。このエネルギーを解消しない事には、地球は常に支配と争いを繰り返し続けるのです。」

私は、背中が凍りつくような恐怖を覚えました。

地球の支配と争いの宿命を作った文明、アンドロメダ文明でいったい何が起こったのか、

知るべき時が来たような感じでした。

私達は、マスターと共に、フェニックス号に乗って時間をさかのぼり、アンドロメダ文明の大きなひずみとなっているブラック・ホールの中に入っていました。

アンドロメダ文明は、アンドロメダ銀河から来た人達が作った地球最古の文明で、現在の地中海地方を中心に栄えていたようですが、そこに住む人達の荒廃とともに滅びてしまいました。

前回も、滅びたアンドロメダ文明のスピリチュアル次元に入り、クリスタルを活性化しましたが、その時はまだアンドロメダ文明の本当の状況や崩壊の詳しい秘密などは教えてもらっていませんでした。

やはり、地球最古の文明だけに隠されている秘密がまだあるようです。

「TAKESHI さん、そうなのです。

このアンドロメダ文明が抱えている問題は、この地球だけでなく多くの星々も共通して抱えている問題なのです。

それはとても大きな問題なので、地球の他の文明が一つに統合される時期を私達も待っていたのです。

そして、あなたが、この問題を対処できる能力を身につける時期を、多くの人々が待ち望んでいたのです。」

私達は、時のひずみと呼ばれる大きなブラック・ホールに入っていました。

フェニックス号のレーダーにはたくさんの隕石が映ります。

きっと、アンドロメダ文明を崩壊させた時に神々によって落とされた隕石のようです。

このブラック・ホールのエネルギーはとても強くすべてのものを引きつけます。

普通の人達であれば、一度入ったら脱出する事は不可能のような気がします。

私達も緊張しながら、船長を見守ります。魔法使いやマスター達は、魔法を使ってフェニックス号を守ります。

船のレーダーにかすかな反応がありました。ブラック・ホールの中奥に大きなドラゴンとマスター達がいるようですが、その場所は大きな石で封印されています。

私は、魔法使い達にお願いして、その石を取り除いてもらいます。

数名の魔法使い達が力を合わせてその封印を解き放ちます。

私達は、転移装置を使って、中にいた人々とドラゴンをフェニックス号の中に移送します。

すぐに癒しの女神、天使達が集まり、彼らを緊急治療室へと運び癒しています。

とても多くの人々と数頭のドラゴンが、次々とフェニックス号の中に運び込まれていきます。

PART3 アンドロメダ文明の結末

ドラゴンの中でもリーダー格のドラゴンが我々の前に、傷ついた姿のまま現れます。

「私達は、この地球に新たな文明を作るためにアンドロメダ銀河からやってきました。

しかし、突然の出来事により、私達はこの場所に多くの仲間とともに閉じ込められてしまいました。

それから、とても長い時間が過ぎ去ったように思えます。

以前は、この狭い空間の中に閉じ込められた者同士も争っていたのですが、今ではその気力も失われ、意識も遠くなり、時間が過ぎ去る事さえも忘れてしまったようです。

そのような時に皆さんが私達の前に現れてくれたのです。

私達はすでに生きる希望を失い、消滅していくスピリット達も増えてきました。

そのような私達を皆さんが救いに来てくれたのですか。」

傷ついて生きる気力さえも失いかけたドラゴンですが、私達が来た事により、新たな希望が心の中に芽生え始めたようです。

私達はドラゴンとこの場所に閉じ込められていた人達に向かって話しをします。

「もちろんです。

私達は、今までいくつもの地球の文明を再生させてきました。

シャンバラやレムリア、アトランティスの文明も皆さんと同じように滅びてしまいましたが、私達がマスターを助け出し、そこに残っていた叡智や愛を復活させました。

その時代のマスター達も私達と一緒に活躍していますよ。」

「そうですか、私達の後には、そのようなくつもの文明が生まれていったのですね。

しかし、なぜそれらの文明は滅びて行ったのですか。」

「やはり文明を守護し運営する人達が、支配欲を持ち、他の人々や文明を自分のものにするために、いくつもの争いが起きたのです。」

ドラゴンは、その瞳から涙を一筋落としています。

「そうですか、この地球に生まれた文明でも、我々の時と同じように争いが起こり、いくつもの文明が滅んで行ったのですね。その責任は私達にあるのかもしれませんが。」

私はドラゴンに、アンドロメダ文明が滅んで行った様子を聞く事にしました。

「私達は、アンドロメダ銀河のある星から、地球にやってきました。

その頃、アンドロメダ銀河では、大きな争いが起こり、銀河のすべての星々や叡智ある存在達が巻き込まれてしまいました。

アンドロメダ銀河を支配するために2つの勢力が、激しい戦いを起こしたのです。

その戦いにより、多くの星々が破壊され、人々が命を失いました。

優秀な戦士達も、いまだ行方不明になっています。

私達は、そのような争いから逃れて平和に暮らすために、アンドロメダ銀河を脱出してきました。

そしてやっとたどり着いた星がこの地球だったのです。

最初にこの地球にたどり着いたときは、まるで楽園のようでした。

美しい海や島々、大陸には植物が茂る森もありました。

私達は、最初にこの地に来たとき、アンドロメダ銀河の過ちを繰り返さないように、自然を守り、地球の人達と仲良く暮らそうと決めたのです。

その頃の地球には、まだ叡智ある存在達はいませんでしたでしたが、進化途中の存在はいました。私達は、その存在達に、私達の遺伝子を少しだけ分け与え、人として進化させていったのです。

私達は、この地球の上に素晴らしい文明を築く事になり、この地球の人々にも建物を作ったり食べ物を栽培する事を手伝ってもらいました。

私達ドラゴン族も、この地球に存在していた若いドラゴン達に様々な叡智や能力を与え進化させていきました。

地球の人々やドラゴン達は、とても素直で、私達の事を歓迎してくれ、献身的に働いてくれました。

人々はまだ、社会というものを持たず、自然の恵みの中で生きていたのです。

私達は、自分達の星の慣わしによって、植物や動物達を育てていきました。

植物や動物達もこの星の環境に順応して健やかに育っていきました。

そして私達は長いあいだを、楽園で楽しく過ごしていたのですが、私達のメンバーのうち数名が、地球の人々を奴隷のように扱い支配しようとしている事に気づきました。

私達は、アンドロメダ銀河からこの地球に逃れてきた時の事を思い出し、地球の人々を支配する事は、私達が最も嫌うアンドロメダ銀河の人達と同じ事をする事になると彼らに何度も忠告を行いましたが、彼らはその事を聞き入れませんでした。

やがて、私達とそのメンバーの間には、地球の人々や地球の環境を巡って争いが起こるようになりました。

私達は、アンドロメダ銀河と同じ過ちを繰り返してもらいたくなかったのです。

しかし、その争いが長引くにつれ、彼らの支配欲はどんどん大きくなりました。

そして、恐れていた事が起きたのです。」

ドラゴンの話を、私達は真剣になって聞いていると、周りにはドラゴンの仲間達が、その苦しみを分かち合うように集まり身を寄せ合っています。

「ついに、彼らがやってきたのです。この地球を支配したいと願う人々の欲望が増大して、彼らがもともと所属していた勢力の部隊がこの地球を支配するためにやってきたのです。彼らは、とても強力な部隊ですので、兵力も兵器も私達とは問題にならないくらい大きな部隊です。

私達は、この地球での平和な生活に慣れ、戦う事さえも忘れていました。もちろん、この危機を予見したメンバー達により、この地球を守る部隊が作られましたが、あっという間に殺されてしまいました。残った私達は、森の中に隠れ抵抗したのですが、彼らは、私達を滅ぼすために皆さんの言葉でいう「核兵器」を使用したようです。

私達が愛した地球は、その兵器によってどんどん破壊され、私達の仲間や地球の人々、ドラゴン達もその生命を次々と失っていきました。そして最後の時に、大きな稲光とともに、たくさんの隕石がこの地球に振ってきたのです。

地表でも大きな地震や津波、火山の噴火などが引き起こされ、地殻の変動もおこりました。私達が、その光景を目にした瞬間、大きな地響きと共に、この真っ黒な空間に投げ込まれてしまったのです。

それは、私達だけでなく、私達と反目しあったメンバー達やアンドロメダ銀河から来た人達も同じです。

どのような力によって起きたのかは分かりませんが、同じ場所に閉じ込められてしまいました。

最初は、私達はこの狭い空間で争いつづけました。

しかし、その争いも無意味である事に気づいたのです。

ここには、支配する何物も残っていないからです。

私達は争う気力も失い、時間の流れの中で意識さえも失いかけていました。

そして多くの人達のスピリットが、この暗闇の中に消えていったのです。」

フェニックス号の中には、地球に住んでアンドロメダ文明を築いた人達だけでなく、地球を支配しようとやってきた人達も救出されたようです。

多くの天使と女神によって彼らは癒され元気になりつつありますが、もうすでに自分がどのような存在であったのか忘れかけている人達もいるようです。

そこに、彼らを救うために、グレート・イエスとグレート・ブッダも現れ、仲間達とともに、彼らの心の過ちのエネルギーを修正しているようです。

私達は、アンドロメダ文明の人々の救出を終わると、このブラック・ホールを抜け、「宇宙の大地」へと向かう事にしました。

そしてこのブラック・ホールは、大天使ミカエルや大天使ルシファー達にお願いして閉じてもらう事にしました。

PART4 地球の宿命

私達は、フェニックス号で「宇宙の大地」に向かいます。

「宇宙の大地」では、いつものように厳しい表情をしたマスターが私達の事を待っています。

私はもう何度も彼と会って行動を共にしているのです、私が様々な人達を「宇宙の大地」に連れてきて、この宇宙の仕組みを解き明かす事を、「宇宙の大地」のマスターも楽しみにしています。

彼はいつも私が来る事を楽しみにしているのですが、ブラック・ホールに落ち込んだ人達の過ちを正さなくてはいけないので、いつも厳しい表情をしています。

私も、彼のペースに合わせて、ブラック・ホールから連れ戻った人達と話をします。

「皆さんは、地球においてアンドロメダ文明を作り、地球の人々を教育し導いてきました。皆さんは、地球において素晴らしい世界を実現しようとしたのですが、やはり自らの自己中心的な気持ちに負けてしまいました。

もちろん、そのような自己中心的な気持ちを戒め、地球を守ろうとした人達もいますが、やはり地球は争いの舞台となって破滅してしまいました。

最後に隕石が降ってきて、地球の地殻変動や火山の噴火、地震などを起こして、文明を壊滅させ、地球を新たな状態にリセットしたのは、まさに神々の判断であり、この宇宙の星々を守ってきた「宇宙の大地」のマスターの判断でもあります。」

ブラック・ホールから連れ戻された人々の中

で、地球を守るために戦ったと思われる人々は私の言葉に深くうなずいていますが、そうでない人達もいるようです。

「皆さんは、地球を新たな世界にリセットするために、地球から排除され、ブラック・ホールの中で長い時間を過ごし、自分達が行った事に対して反省する時間を与えられました。

もうすでに皆さんは自由になる事ができます。

私達と共に新しい平和な世界を作るために働きたい人は、私達と共に来てください。」

先ほど、私の言葉にうなずいていた数名の人々はにこやかに笑いながら、喜びの声を上げますが、不愉快な顔をして黙っている人もいます。

私は彼らに尋ねます。

「あなた方は、自分達がした事に対してどのように考えていますか？」

腕組みをして威張っている様子の男性が答えます。

「私達は自分が信じている事を行っているだけです。

進化し叡智のある者達が、そうでない者を支配し導く事がこの宇宙の発展のためであると考えています。

彼らは、私達に仕え、私達のために働く事で、自らを高め進化させる事ができるのです。

この宇宙は昔からそのようにして進歩してきました。

それが私達にとっての真実です。」

私達は、彼らと話をしましたが、彼らは自分の意見を変えるつもりは全くないようです。

私は、グレートイエスやグレート・ブッタと話をしましたが、彼らをこのまま自由にする、また大きな争いを引き起こす可能性があります。

「宇宙の大地」のマスターが私に話しかけてきます。

「TAKESHIさん、実はこの事が、地球でいつまでも争いが絶えない原因なのです。

地球最古のアンドロメダ文明において、地球を支配するための戦いが行われ、その戦いを引き起こした人々は地球が崩壊しても、その別次元であるブラック・ホールに閉じ込められ、地球を支配したいという願望を持ち続けました。

そして、その願望は、私がいくらブラック・ホールに封印をかけたとしても、その封印から流れ出て、ブラック・ホールの力を借りてさらに強力な力となり、新しく生まれ変わった地球に、次々と襲いかかっていったのです。地球を支配しようとする力は、同じような資質を持つ人々の意識とひとつになって、地球を支配しようとしてきました。

地球は、そのような人達の間で引き起こされる奪い合いの歴史の中に身を投じる事となったのです。

それはアトランティスだけでなくレムリアやムー文明、アバロン文明も巻き込みました。そしてそれ以降も、地球の歴史を争いの歴史に変えていったのです。

この地球の最初の文明であるアンドロメダ文明で起こった事が、地球の未来を大きく変えてしまったのです。

地球は争いの宿命の中に飲み込まれてしまったのです。」

「宇宙の大地」のマスターは、まるで地球を憐れむかのように語ります。

「地球は、争いの歴史を繰り返してきました。自分達の信念と欲望のために、他の国の人達や民族を踏みにじってきました。

それはこの時に、形づくられた地球の宿命とも呼ぶべき事なのです。

地球はその宿命から逃れるために、様々な文明を生み出しては崩壊させていきましたが、支配する事への熱望は絶える事なく新たな争いを生み続けたのです。

そして地球は、その宿命を終わらせ、新たな進化を行うために、あなた方を生み出したのです。

あなた方が、この地球の最初の文明にたどり着き、その宿命の原因を解消させるために、あなたは多くの事を学び、ブラフマンとして育っていったのです。」

私達の中に、地球が体験してきた多くの文明の崩壊と戦争の様子が走馬灯のように流れていきます。

人々の「支配したい」という欲望によって、身を引き裂かれるような思いに苦しんできた地球の惑星意識の悲鳴が、私達の心を切り裂きます。

しかし、その事も終わりました。

私達と多くのマスター、ブラフマン達が協力して、アンドロメダ文明の人々を救いだし、アンドロメダ文明を崩壊させた理由も解き明かしました。

彼らが閉じ込められる事によって、さらに「支配」のエネルギーを増大させ、地球を襲い続けていたブラック・ホールも消滅させる事ができたのです。

地球は、「支配の宿命」から逃れる事ができ

たのです。

私は、大地のマスターに言います。

「皆さんのおかげで、私達はこの地球を繰り返し襲ってきた争いの原因を知る事ができました。

そしてそれを解決し、地球をととても大きな宿命のエネルギーから自由にする事ができたのです。

地球の進化は、これで加速度的に早くなり、地球に住む私達も、多くの争いを生み出してきた力から自由になる事ができるでしょう。あとは、私達人類が「支配」の呪縛から逃れ、愛と叡智の世界に戻る事を選択するだけです。」

大地のマスターも続けて語ります。

「そうです。

地球は、支配の宿命から逃れ、新たな進化の時代へと入ったのです。

この事が達成されない限りは、地球がパラレルワールドに移り変わり、その後再統合を迎える事はできないでしょう。

あなた方は、今まで多くの困難な問題を解決してきました。

地球のいくつもの次元を復興させてきた事もその一つです。

それもすべて、この地球の宿命とも呼ぶべきアンドロメダ文明の過ちを正すためだったのです。

さあ、アンドロメダ文明のスピリチュアルな次元を新たに創造するためにもうひと働きしてください。」

「大地のマスターよ、私達の活動の意味がまた一つ明らかにされました。

皆さんの、深い愛に感謝します。

しかし一つ問題があります。

このアンドロメダ文明を破壊する原因となった彼らをどうしますか。

彼らはまだ、支配する事を自らの正義と考えているようですが。」

「TAKESHIさん心配しなくても大丈夫、彼らはもうしばらく私が預かります。

別の方法で封印しますので、彼らのエネルギーがこれから地球を脅かす事はなくなるでしょう。」

私達は、大地のマスターの言葉にうなずいて、地球を支配から守るために活動してきた人達を連れて、「宇宙の大地」を離れ、崩壊したアンドロメダ文明があった次元へと戻りました。

PART5 アンドロメダの叡智の森

私達は、依然アンドロメダ文明の名残りの次元を一つ復興させていましたが、その場所からさらに上の次元に入ります。

そこにはすでに小柄なドラゴンと小人族のドワーフ達が待っています。

アンドロメダ文明の叡智を残す次元は、もうすでに形をとどめておらずそのエネルギーがばらばらの欠片となって飛び散っています。

ドラゴン達はこの次元にあったクリスタルを探しているようですが、すでに形も残していないようです。

ドラゴン達の瞳から涙が一滴こぼれていきます。

きっと彼らは、アンドロメダ文明の守護を行

っていたドラゴンのように、私達が連れ戻してきたドラゴンを見るととても喜んで近くに寄ってきます。

私はドラゴン達に、新しいクリスタルをここに設置してあげる事を伝えました。

ドラゴン達も大喜びです。

私は、フェニックス号に積んであったホーリー・クリスタルを、ドラゴン達の指示の元におろしていきます。

そして、このクリスタルをアンドロメダ文明のスピリチュアル次元のクリスタルとして、次元の中心に配置し活性化します。

多くのドラゴンや地球の多次元のマスター達がサポートにやってきてくれました。

私達はドラゴンと巨人族のスティックス、そして魔法使い達を中心に、アンドロメダ文明のスピリチュアルな次元を形作っていきます。

次元の「核」をセンタークリスタルから生み出し、それを広げ、固定していきます。

次元は大きな雲が集まるように沸き起こり、雷のような光で固められ、大地のように固くなっていきます。

次元がある程度の大きさになるとアンドロメダのドラゴンとドワーフ達が、クリスタルの周りに集まり祈り始めました。

この次元に浮遊しているスピリット達を呼び戻しているようですが、もうすでに生命を失っている者達も多いようです。

そこにワシ族と鳳凰族が現れます。

彼らはこの次元の空間を自由に飛び回り、生命なきスピリットを光の世界に導いていきます。

そして少しずつですが、生命ある者達がクリスタルの周りに集まってきました。

次に私達のサポートに現れたのは、ゴッデス・オリジンやダナ、レイの3人組です。彼らは、生命を新たな次元に導くために、ハスの花の形をしたロータスクリスタルを組み立てます。

中心に大きなクリスタルが立ち、その周りを蓮の花弁の形をしたクリスタルが取り囲んでいます。

薄い桜色をしたロータスクリスタルは、生命を生み出す場所とつながり、この次元に新たな生命を生み出します。

ゴッデス・オリジン達は、この次元に浮遊していたスピリット達をこのロータスクリスタルを使って生まれ変わらせようとしているようです。

スピリット達が、クリスタルの中にどんどん吸い込まれていきます。

その間に、多くのマスターやフェアリーの女神も現れ、この次元を美しい自然があふれる世界へと変えていきます。

かわいいフェアリー達もその姿を現し始めました。

美しい小さな花から始まり少しずつ大きな植物達も育ち始めました。

花々の陰から小さな虫や動物達も姿を現してきたようです。

ゴッデス・オリジンのロータスクリスタルから、新たな生命達が生まれてきました。

ブラフマン達が現れ、私に声をかけます。

「私達全員のオリハルコンを空高く掲げてください。

アンドロメダ文明の偉大なる叡智と神聖な

るパワーがこの地に戻るように祈りましょう。」

私も自分のオリハルコンを掲げます。
オリハルコンの光が一つに集まり、さらに大きな光が生まれます。

するとその光の中からひととき大きなドラゴンが生み出されます。

黄金色に輝くドラゴンは、このアンドロメダ文明の偉大なる叡智と神聖なパワーの象徴として新たに生まれたようです。

ブラック・ホールから助け出されたドラゴン達が、そのドラゴンに引き寄せられるように集まり、巨大なドラゴンと一体化していきます。

今までアンドロメダのドラゴン達が分割して持っていた叡智とパワーをその巨大なドラゴンの元に統合しているようです。

そしてアンドロメダ文明を必死で守っていた人々にも、ドラゴンから放たれた光が満ちていきます。

彼らの中にある叡智が目覚め、ミステックなパワーが甦ってきているようです。

ブラック・ホールの中に閉じ込められた時、その叡智は失われかけましたが、再びアンドロメダ文明のスピリチュアル次元が取り戻される事で、偉大なるドラゴンと共に、彼らの力も甦ってきたようです。

新たな次元は、美しい森や湖、野原などの世界に姿を変えていきました。

七色の虹もかかり、鳥達も虹の上を羽ばたいて遊んでいます。

すべてが美しい光と祝福に満ち溢れています。

そして森の中にある湖の横には、美しく巨大

な生命の樹が育っています。

それは、アンドロメダ文明の叡智の象徴のようにも見えます。

その樹は森に中にも広がり、今までの森よりもいっそう美しい森を生み出していきます。

PART 6 地球人類のために準備された叡智の種

小人のドアーフ達は、この森の番人のようです。

叡智の森が生まれるととても楽しそうに仕事を始めます。

ドアーフのリーダーのようなマスターが私のもとに一つの種を持ってきました。

種とは、新しいシステムの事で、この種によって、植物や動物が生み出されたり、星の環境を変化させる事ができます。

彼が守っていた種は、その当時の人間の中に植えられるべき種であったようです。

この種が人間の遺伝子の中に組み込まれると、人々はライトボディにつながる愛と叡智の光を受け止める事が可能となり、人類は完ぺきな人類に向けて大きく進歩するはずだったようです。

しかし、人類を奴隷として使用する事を望んだ人々やアンドロメダ銀河から地球を支配するためにやってきた人々によって、その使用は妨害されました。

彼らにしてみれば、人類はあまり賢くないほうが支配しやすかったために、その種を人類の遺伝子に組み込む事を邪魔したようです。

この種は、再びドワーフのもとに戻され、新

しく生まれたアンドロメダ文明のスピリチュアル次元で守られる事となりました。そして、文明の中でも遺伝子技術を持つムーとシャンバラのマスターにも渡され、独自の研究が行なわれました。

もしかしたら、その時この種のシステムが、人間に組み込まれていたら、その後の歴史は全く変わっていたかもしれません。

地球が素晴らしい楽園になっていたか、また違う世界を生み出していたか、知る由もありませんが、少なくとも、これからでも地球人にとって大切なシステムになる事だけは間違いないようです。

私は、アンドロメダ文明のメイン・クリスタルの中にも、この種と私のオリハルコンを一つ入れ、この次元に愛と叡智がもたらされるように祈ります。

そして、各次元のマスター達も、地球のいくつもの次元とアンドロメダをつなぐ作業を行っています。

地球の最古にして、最も影響力の多きかったアンドロメダ文明のスピリチュアル次元がここに復興しました。

PART 7 地球のエネルギーバランスを保つ月の働き

私達はアンドロメダ文明の復興を終えた後、地球と月そして太陽のバランスを保つために、フェニックス号に乗って月へと出かけました。

月に行くとも月のマスター達と共にかぐや姫がたくさんウサギを連れて私達を待っています。

私達は、月で人と同じような姿をしたマスターとウサギさんをよく見かけますが、どうやらウサギさんにはとても大きな秘密があるようです。

それは、エネルギーに関する特別な能力を持っているという事です。

月のウサギさんの役割は、地球のエネルギーバランスをコントロールする事と、地球に対して太陽と月のエネルギーが最適な状態で送られるように働きかける事です。

もともと月は、地球に対してとても大きな働きを持っています。

月の光によって、人々の精神状態を安定させたり女性の生理のリズムを作り出したりします。

また月の引力は海の満ち引きを作り出し、地球の環境を進化させる役割を担ってきました。

月の秘密基地に入ると、そこはとても高度なメカニックが作動しており、ウサギさん達が一生懸命に働いています。

これが地球のバランスを取る装置のようですがもうかなり古くなっているようです。

ベラトリックスとマスターA のグループに来てもらいシステムを見てもらいます。

彼女達も、このシステムの古さにあきれています。

月のマスターは、自分達のシステムに自信を持っていたようですが、彼らの話を聞いてがっかりしたようです。

私達は、ウサギさん達の仕事の邪魔にならないように急いでシステムの変更に入ります。

私達はこのシステムの動力源を見せてもら

うために、さらに月の地下深くに降りていきます。

そこには、動力源と思われる石があるのですが、すでに黒ずみぼろぼろになっています。これでは、この月のシステムが壊れてしまうのは、もう時間の問題です。

私達は、ベラトリックスに報告してタイミングを見計らってオリハルコンとこの石を交換します。

オリハルコンを動力装置に入れると、周りに強力な光があふれだし、月のシステムが順調に動き始めます。

月にはもう一つの動力源があるようです。私達が向かった場所にあるのは月自体を動かしている動力源です。

それはクリスタル・ドームとメイン・クリスタルではなく、機械装置の中に置かれている立方体のクリスタルです。

この様子を見ると、月は自然の星ではなく人工的な星型宇宙船のようです。

私達はここにもオリハルコンを入れ、月のエネルギーを活性化していきます。

私のオリハルコンの光に、鳳凰族が気づいたようです。

宇宙空間を軽々と抜けて鳳凰のマスターがやってきました。

彼は月の周りを何度も駆け巡り、宇宙船としての月の働きを活性化していきます。

これで月の働きは、さらに地球と深くつながっていくようです。

PART8 太陽と月と地球のトライアングル

月を後にして、私達は太陽へと向かいます。太陽のスピリチュアルレベルに入り、光のフレアのようなものを抜けると、そこにあるのは青い海のような光のボールです。

私達は何度も太陽には来ているので、さっそく太陽のマスターであるラーのもとに急ぎます。

太陽は3層のスピリチュアルレベルに分かれており、ラーは第3層にある太陽の神殿で私達を待っています。

ラーは私達が来ると嬉しそうに話をします。「TAKESHIさん、皆さんの活躍のおかげで、地球だけでなく太陽系のいくつもの星々もだいぶ調子が良くなりました。

地球を中心として、創造主達の光がこの太陽系や天の川銀河にたくさん流れ込んできたおかげで、多くの星々の問題が解決し、素晴らしい成長を遂げる事ができるようになりました。

そして今日は、ついにアンドロメダ文明を復興させた、という事ですね。

これで、地球だけでなく、太陽系の星々も大きく進化していく準備が整いました。

私達は、その最終ステージに向かって、月と地球に光を送りましょう。」

「マスターラーよ。

長い事、地球と太陽系の星々を見守ってくださりありがとうございます。

皆様のご協力のおかげで、この地球も素晴らしい星として生まれ変わる事ができるようです。」

私は、太陽の神殿にあるクリスタルにも、私のオリハルコンをいれ、太陽の神殿をさらに

輝かせます。

マスター達が、太陽と月、そして地球をつなぐ光のトライアングルを作り、3つの星の光をつないでいきます。

PART9 地球の次元を守る騎士団

私達が、地球の多次元の復興で最後に行った事は、この多次元を守る騎士団を作る事でした。

これらの次元には、まだいくつもの小さな問題が残されていますが、その事に私はもう関わってられないので、私の代わりに、これらの次元の調整を行う騎士団を生み出す事にしました。

次元のエネルギーを創造したり光を運ぶドラゴン達と宇宙の神聖なる法則をもとに各文明のスピリチュアル次元の運営をサポートする魔法使い達、大天使とフェアリー、そして多くのマスター達に協力してもらい、地球のいくつもの文明とそのスピリチュアル次元を守護するための騎士団を生み出しました。

これで、私が直接出向かなくても、彼らがこの世界の守護を行い、地球の統合と進化に向けて働いてくれる事でしょう。